明治四十一年十月二十日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百二十七號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雑誌

第貳百貳拾七號目次

講演

叢談

家庭衛生

質疑

雜報

大日本婦人衛生會記事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衞生會

十一月例會通知

來る十一月七日（第一土曜日）午後一時半より神田區一ッ橋通り女子職業學校内に於て例會を開き左の講話有之候間萬障御繰合せ御知友御誘引御來會被下度候也

一萎縮腎に就て　醫學士田村光顯君

一身體及其保護　ドクトル富士川游君

當日は本會總裁宮妃殿下の御臨場を仰ぎ奉る筈に付此段謹みて

會員各位に告ぐ

明治四十一年十月

私立大日本婦人衞生會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◉會　告◉

◉會費未納の御方は會計整理の困難を察せられ本年十二月迄の前金相添へ至急本會事務所へ宛御送金被下度候

◉前金切れの御方は此際御送金被下度候也

本會の振替貯金口座番號一〇六〇〇番に付右番號を御承知の上所在の郵便局に於て該用紙御請取被下指定の欄内へ送金高、拂込人住所氏名、及び加入者住所氏名（即ち本會）等を記入し同時に金圓御拂込相成候はゞ直ちに本會へ送金無料にて相屆き且つ途中紛失及び盜難の憂ひも無之候又該用紙裏面に通信文欄有之候間他に用事ある節は何なりとも御記入差支無之候、右の如く拂込人に取りては安全、輕便、經濟等一擧にして種々の利益ある便法に付自今該法を御利用被下度此段會員諸姉に稟告致候也

○〔七月發行の本誌〕には會員諸姉の御便宜を謀り振替貯金拂込用紙を添付致置候間之を御用ゐ被下度候

○爲替御送附の節は本會事務所宛にて麹町區富士見町郵便局へ御振出しを乞ふ

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活をなし得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆婦人のもつぱら學ぶべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは誠に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を拂はざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ每月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演說談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して冊子に編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸彦姉に告げ其賛成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ以て社會全般の幸福を増進するにあり

●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く

●第三條　本會々員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

●第四條　入會の者は姓名族籍住所及會員の紹介を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を送付す（交付手續は未に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に郵便せらるべし

●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす

●第六條　男子にして本會の旨趣を賛成する者は之を賛成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に賛成員たることを望みたる節は役員の協議に依り賛成員とすることあるべし

●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得

●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に届出し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず

●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を推し皇族の宮殿下に願出るものとす

●第十條　本會に左の役員を置く　會長一名、副會長二名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名

●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選舉し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし

●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす

●第十三條　臨時指名委員の件

●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す

●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す

●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又毎年二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし

●第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑托し會員をして隨意聽講せしむるものとす

●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々員に誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て員者たるべき事）

●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁す

●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと

●第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の増減等を報告すへし

●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす

●第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす

●第廿四條　會計は一ヶ年每に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會

●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得

●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出へし爾後員數増減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす

●第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得

●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すへきを以て其實費を支會より本會に送付すへし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ

●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

●雜件

第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に頒附すべし

●第卅一條　會員又は會員外の者にして會員若くは書籍物品を本會に寄贈する者あるときは本會々長の名を以て謝狀を贈り寄贈者の姓名及品目を登錄し尚本會雜誌を以て報告すべし

●第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるへし（郵券送料一割増）

●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すへし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（麹町區八重洲町郵便取扱所宛）振出しおべし

●第卅四條　會員中若し本會の體面を汚すべき所爲ある者又は屢く會費を催促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若しくは除告することあるべし

東京市麹町區富士見町二丁目廿二番地　私立大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

○役員姓名

總裁　東伏見宮依仁親王妃周子殿下
會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　男爵夫人　濱尾作子

（いろは順）

幹事　鳩山春子
同　羽田三緒子
同　岡田德子
同　高木かう子
同　山本多穂子
同　松平芳子
同　三浦敬子
同　石川貞子
同　岩下ゆか子
評議員　濱田捨子
同　長谷川仲子
同　仁禮壽賀子
同　西升子
同　穂積歌子
同　土肥多越子
同　緒方悦子
同　岡山とし子
同　小川孝子
同　男爵夫人　加藤鈴子
同　片山龜子
同　吉武輝枝子
同　丹波貞子
同　高橋孝子
同　田村きよ子
同　男爵夫人　南部限子
同　中濱芳子
評議員　子爵夫人　山口貞子
同　松井正子
同　岸　澄子
同　三宅藤子
同　宮本樂子
同　宮下咲子

●支會、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

本會特別賛成員

（●は本會の爲め講演又は執筆せられし諸氏）

醫學博士　入澤達吉君
理學博士　飯島魁君
ドクトル　伊澤信平君
醫學博士　色川圀士君
ドクトル　伊東祐彦君
醫學博士　飯盛挺造君
理學博士　伊藤隼三君
[illegible]　石川千代松君
醫學士　岩井禎造君
醫學士　石知久君
醫學士　野瀨雄一君
石原久太郎君
貴族院議員　濱尾新君
醫學博士　濱田玄達君
法學博士　鳩山和夫君
東京　萩原淵四郎君
醫學博士　芳賀榮次郎君
長谷川泰君
新潟　長谷川一詮君
小兒科　小原桐之君
醫學博士　岡田榮吉君
醫學博士　林春雄君
醫學博士　佐藤達次郎君
醫學博士　緒方正規君
步兵少佐　細內文次郎君
醫學博士　土肥慶藏君
醫學博士　岡田和一郎君

醫學博士　大澤謙二君
醫學士　大西秀治君
醫學博士　大澤岳太郎君
一等藥劑官　恩山正信君
醫學士　若杉喜三郎君
醫學士　渡邊房吉君
男爵　加藤弘之君
醫學博士　加藤照麿君
醫學士　賀古鶴所君
醫學博士　河本重次郎君
醫學博士　片山國嘉君
醫學士　川上雅量君
醫學博士　梶川龜一郎君
醫學博士　金杉英五郎君
醫學博士　笠原光興君
醫學士　唐澤光德君
醫學士　河野衛君
醫學博士　高橋順太郎君
ドクトル　高山紀齋君
醫學博士　高木兼寬君
法學博士　高木妙三君
醫學博士　山代義德君
新潟　田代突助君
男爵　高崎正風君
醫學士　竹中成憲君
醫學士　高山耕安君
[illegible]　高橋辰五郎君
藥學博士　丹波敬三君
醫學博士　高橋凡碩君
藥學博士　田原良純君
醫學博士　田村光顯君
醫學博士　久保猪之吉君
醫學博士　米山彦郎君
醫學士　星野茂光君
二等軍醫正　宮本叔君
醫學士　横井忠國君
三等軍醫正　辻新次君
大日本教育會長　坪井正五郎君
理學博士　長與稱吉君
醫學博士　南部實男君
男爵

藥學博士　長井長義君
醫學博士　遠山椿吉君
醫學博士　中濱東一郎君
醫學士　黑田支郎君
醫學士　栗本庸勝君
海軍中佐　小笠原長生君
醫學士　村松鐵三君
醫學博士　隈川宗雄君
醫學博士　栗本東明君
醫學博士　山田鐵三君
醫學士　山田弘倫君
醫學士　山根正次君
岡山　山川春二君
傳染病研究所技手　丸山長四郎君
ドクトル　松山陽太郎君
ドクトル　此木信六郎君
盲啞學校長　小西信八君
廣島　小泉寶君
醫學士　古川榮君
東京　布施正順君
南滿洲鐵道總裁　後藤新平君
[illegible]　エ、ベルツ君
醫學士　甲野棐君
文部書記官　寺田勇吉君
醫學士　寺田牧作君
醫學士　寺田織尾君
子爵　秋元興朝君
前軍醫總監　足立寬君
ドクトル　富士川游君
高崎醫會長　土谷全次君
產科婦人科　水原漸君
ドクトル　久保田誠康君
醫學博士　佐々木政吉君
醫學士　淺田決君
醫學博士　朝倉文三君
ドクトル　朝山花六君
醫學博士　許斐勝剛君
醫學博士　佐藤三吉君
醫學士　櫻井郁二郎君
ドクトル　佐伯理一郎君

醫學博士　榊順次郎君
醫學博士　榊保三郎君
醫學士　佐藤得齋君
醫學博士　櫻井恒次郎君
醫學博士　桐淵鋭次君
醫學士　北村榑造君
醫學博士　北島多一君
ドクトル　北川乙治郎君
醫學博士　木下正中君
醫學士　北島小太郎君
醫學博士　北里柴三郎君
醫學博士　三浦守治君
醫學博士　三浦謹之助君
小兒科專門　宮本仲君
理學博士　箕作佳吉君
醫學博士　三島通良君
醫學博士　三宅秀君
醫學博士　三輪信太郎君
伯爵　土方久元君
醫學博士　島村俊一君
醫學博士　弘田長君
ドクトル　山高品君
ドクトル　須田卓爾君
醫學士　澤川德君
醫學博士　木村德衛君
醫學博士　森林太郎君
醫學士　熊川三男三君
醫學士　波多野悅君
醫學博士　吳秀三君
ミス　リッテル
ミス　ヒユース
ミセス　コーツ
ドクトル　菊池衛一君
醫學士　橋本左武郎君
醫學士　鳥居作作君
醫學博士　土川卯三郎君
ドクトル　佐藤運雄君
ドクトル　門山信光君
醫學士　澤崎寬嗣君

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



貝原益軒先生之墓

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

講演

飲食物の取締（承前）

藥學士　石津利作君　講話

只今申上げました亞硫酸の附加と云ふものは、是は防腐の目的ではなく主に外觀を良くする目的に加へたのであります、今度は防腐劑を肉に加へると云ふのが隨分あります、是は腐敗を止めるのみならず、肉の外觀を良くするのでありますから是は雙方の目的を兼ねて居るものと言はなければならぬ、それでこう云ふ風な防腐劑が禁ぜられました以來、今度はフオルマリンと云ふものを非常に多く用ひられるやうになつた、併し此等の防腐劑は普通使用する分量に於て既に衛生上有害であると云ふので法律で禁止されました、こうなりまするど今度は規則に牴觸しない所の防腐劑を發見せんと苦心する者が出て參りました、即ちウロトロピンと云ふものがフオルマリンの代用品として私かに用ひられました、又此のウロトロピンに少量の食鹽と硝石と此二つを混ぜまして、それにカリンと云ふ名を付けて肉の防腐劑として獨逸で之を賣出したものがございます、併しながら其カリンと名けて肉の防腐劑として賣出して居るものは能く調べて見た所が是れ〳〵の性分から成立つて居ると云ふことが分りまして、獨逸の衛生局では是は矢張り有害なものとして使用を禁ぜられました、其ウロトロピンと云ふものを肉の中へ入れて置くと、肉は時を經ると段々酸が出來まして其酸の爲にウロトロピンと云ふものが分解して又にフオルムアルデヒードと云ふものが出來て防腐の效力を奏する、さう云ふものを賣廣めて金を儲けたと云ふやう

なものがあつたのです、日本に於きましても飲食物防腐劑取締規則には色々な防腐劑使用を禁じてありまして、其中にフォルムアルデヒードと云ふものを掲げてありまするのは矢張り外國の例に倣つたのでありませう處が今度は法律の裏を潜り不正の利益を占めようと謀る輩が出ました、即ち嘗て獨逸で使用され後ち禁止になりました夫のウロトロピンなるものを酒屋へ持つて行きまして、是は無害の防腐劑であるとか、是は取締規則に違反するものでない決して處罰されることはないから之を御使ひなさいと云ふて全國の酒屋に賣廣めて歩いたやうな奴がございました、かやうなことがございましても、取締を致しまする方では法文の文句に明示してありませぬ處から不正の行爲とは知りつゝ之を處分して取締ることが出來ませんでした、此等の不正行爲をするものが段々とあることに氣が付いた時分には既に遲い、其時分にはもう既にそれ等の商人の爲に貴重なる健康を犧牲にした者が澤山出來て居るのであります、それで防腐劑取締規則が出ましてから約一年半も經つた後に初めて當局者の方では氣が付きまして、矢張りウロトロピンと云ふものも酒の中に入れて置くと酒の中の酸の爲に分解してフォルムアルデヒードと云ふものが出來まして何時までも殘つて居りますから、さう云ふやうな防腐劑の入つたものは健康上に害があると云ふやうなことが分つて矢張り取締規則の中に追加をしまして現今ではそれ等のものも禁ずるやうになつて居ります、さう云ふやうな譯で取締るものと取締られるものとはどつちが先きへ進むかと云ふと、何時も惡い事をする智慧が先きへ進むそれが當局者の耳に入る時分には既に遲くて、取締の規則を設けて取締つて居るやうな曉にはモウ世の中では他のことを考へて規則に觸れないもので、他の惡いことをチャンと考へて居る、一體世の中の事は大抵斯う云ふ風に參るものだらうと思ひまするが國々が戰爭をしまする爲めに色々な武器を發明をして拵える、攻擊の方と防禦の方とどつちが先きに進

むかと云ふと、矢張り攻撃の方が先きである、非常に效力の强い大砲が出來る、さうすると其大砲に撃たれても疵の出來ないやうに軍艦の方では甲板を厚い鋼鐵で造る、或は水雷が發明されたならば防禦する爲に網を軍艦の縁へ張るとか夫れ〳〵攻撃に對する防禦策を講じて居る、所が矢張りどうしても攻撃の方が先きです、惡いことをする奴は取締る人よりは怜悧で當局者の考へ付かないやうな所に考へ及ばして意外なことを考へて居る、又實際金儲の上から言ひましたならば、吾々のやうに惡い事を發見する爲に苦心をして居るよりは當局者の目を盗み取締規則に觸れないように惡い事をする方が金が儲かる、それでありますから外國邊りでも善い方に智慧を使ふよりは惡い方に智慧を使ふと云ふことが隨分ありまして、化學者の中にも贋造のことばかり考へて居る化學者がないではない、葡萄酒の如きは隨分どころではない是程又贋造の多いものはありませぬ、日本へ外國から葡萄酒だと言つて這入つて來るものでも、眞正の葡萄酒と云ふやうなものは極く少なくて獨逸邊りでさへ却々葡萄酒は多く贋造のものが這入つて來て居るだらうと思ひます。

さう云ふやうに世の中には惡い智慧の方が早く廻りますからして、如何なことをやつてでも金を儲けたいとあせつて居る者がある、それ等の人間は吾々の健康と云ふやうなことを度外視して居るのでありますから、斯う云ふやうなことをやつたならばそれを食つたり使つたりする所の人が健康を害されると云ふやうな正直の考を持つて居る者には惡い事が出來る譯でもありませぬが、吾々の健康がそれ等の不正の商品の爲に犧牲になると云ふことが隨分ある、それ等の不正の行爲を取締るに付きましては政府に於ても飲食物取締規則を獨逸のやうに完全なものにして發布し單に衛生上に害があるものばかりを取締るのみならず矢張りそれに關聯して居る問題でありますから、瞞著する目的を以て僞造したり或は模造したり、或は變質をして居る物を賣ると云ふやうなこ

ともを嚴重に取締ると云ふことは必要であると考へるのであります。

其他變質と云ふことを先程から度々申しましたが、獨逸に於て所謂變質せる食物と云ふことはどう云ふことであるかと申しまするとマア肉で御話ししますると、衛生上有害であると云ふ程度に至りませぬが實質に著しい變化を來して居る物、第二には病氣に罹つて居る動物の肉、それから寄生蟲の居る所の肉などが此中に數へられます、獨逸の此處で言ふ所の變質と云ふ言葉に對して良い譯を見出しませぬから假に變質と稱へて居りますが、さう云ふやうな物も矢張り變質肉の中に數へて居るのであります、是は腐敗と云ふのと意味が違ふ、衛生上害があると看做さるゝ物で腐敗と云ふ程度までには行かない、腐敗と云ふものは自然に打捨てゝ置きまして色々の黴菌が其中に發育し、飲食物の中に有毒のものが出來るで是等は腐敗して居るものにて爰に謂ふ變質とは違ひます、けれども、法律上謂ふ所の變質とは衛生上有害であると云ふ程度に至らぬが、詰り衛生上さう云ふ物を使はぬ方が宜しい、大事をとつて使はぬ方が宜しいと云ふやうな程度の實質の變化を來した物を申すのであります、食べて嘔吐を催すやうな風に變化をして居る所の物を矢張り此中に入れてあります。

それから家畜などの中で豚のやうなものは魚の廢棄物、腸であるとか又は腐つたやうな物を餌にして飼ふことがありまするが斯樣な豚の肉は、嫌な肝油のやうな匂ひがして人に依つてはどうも嘔吐を催すやうなこともありまする、さう云ふやうな物も矢張り一種の變質の中に數へて獨逸では販賣することを禁じてあります、牛肉の如きものが所謂法律上變質して居るかどうかと云ふことは、是は獸醫と云ふ者がありまして、獸物に關することを專ら司つて居る、此獸醫の鑑定に委せるので化學者の方では分り兼ます、若し獸醫が是は變質であると云ふ鑑定を下せば其肉を賣る所の商人は處罰をされる譯であります、

衞生上有害な肉と申しましてもナカ〳〵衞生上有害と判然分るものでない、衞生上有害であるとか衞生上危害を及ぼすの虞れある物と云ふ其程度を定めることは餘程困難である。

それから飲食物のやうな物であると大事をとつて、是は用ゐれば或は害を及ぼすであらうと云ふやうなことがありましたならば、衞生上有害な部類に入れて取扱ふ方が安全である、實際衞生上有害と云ふ言葉の意味を嚴格に解釋すると割合に範圍が狭くなりまして餘程毒の物でないと衞生上有害と云ふものゝ中に入りませぬからして、實際の所では衞生警察的に申しますると、衞生上無害を保し難いと云ふやうな場合には衞生上有害と云ふ部類に入れて其處置をする方が安全であるのです、衞生上有害な肉と云ふものはどう云ふものであるかと云ふ例を擧げますと敗血症、膿毒症と云ふやうな病氣に罹つて居る動物の肉などです、これは衞生上有害と認めて居る、さう云ふやうなものを食ふと肉中毒を起す、それから先程チョッと御話を申しました通り寄生蟲のある肉は矢張り衞生上有害のものとしてある、腐敗して居る肉は無論の話であります、それから衞生上危險の虞れある肉はどう云ふものであるかと云ふと、結核性の病氣に罹つて居る動物の肉、さう云ふ風な衞生上有害であるか、衞生上危害を及ぼすものであるかどうかと云ふことは誰が鑑定するかと云ふと、獸醫の撰定に依るのであります。

それから肉に附隨してチョッと御話を申して置きたいのは、貯藏肉、罐詰になつて居る所の肉、罐詰にして蓋を密閉して長い年月の間保存して居る、さう云ふやうな物が又屢ゝ疾病の原因となり、それが或原因からして分解を起して腐敗するやうなことがある、それが爲に罐詰の肉の中毒に依てそれが原因となつて隨分重い疾病を起すこともございます、罐詰が腐敗して居るかどうかと云ふことを一番早く知るには、罐詰を拵える時分に、普通罐詰の方法が完全でありまするならば、臘付をしまして一旦それを熱

するのでありますからして、冷えまするとと鑵詰の蓋が内部の方に凹んで居る、是が普通の鑵詰の狀態でありまするが、或原因に依て臘付が不完全になる所から腐敗を起す場合には鑵詰の蓋は平らになつて居るか、或は脹れ上つて居る、それが腐敗して居る際には、腐敗の瓦斯の爲に壓力が出來るからして鑵詰の蓋が少し上の方に脹れ上つて居る、さう云ふやうな鑵詰は腐敗の虞れがあるから用ゐない方が宜しいそれから蓋を開けまして肉を見まするど、肉の周圍に膠のやうな物の質が附著いて居る、日本の大和煮のやうなものはさう云ふことが少ないでありませうが、純良な鑵詰でありまするど膠やうの物質が溶けて居りませぬ、所が黴菌が入つて腐敗をして居るやうなものは膠質が分解を起して居ます、それ等の鑵詰は腐敗の徴候として廢棄しなければなりませぬ、是は唯肉に付きまして大體の御話をしたに過ぎないのでありますが、モウ少し飲食物に付て市場にはどう云ふ不正の行爲が行はれて居るかと云ふことを雜つと御話をしたいと思ひます。

動物性の食物の中で肉に次ぎまして大切のものは御承知の牛乳です、此牛乳に付ては隨分是までも皆さん方が御話を御聽きになつて御承知のことでありまするからして詳しくは御話を致しませぬが、牛乳はどう云ふ點に於て贋造をされて居るかと云ふことを御話して置きたいと思ひます。勿論是は大切のものであつて、而も需用の分量が多い又比較的直段の高いものでありますから、贋造する方から言へば骨折甲斐があるものであつて、從つて牛乳には贋造が非常に多く行はれて居る、第一水の加入、それから第二には先程御話しました一部分の脫脂、全體の牛乳の脂肪を取つて仕舞ふと云ふことは餘り破廉恥のことであつて滅多にありますまいが一部分だけ脂肪を取つて其脂肪はバタの製造に向けて、あとに殘つた脂肪に植物性の脂肪を加へ之を全乳として賣り、或は又眞正なる全乳を一部分脫脂しました所の脫脂乳の中へ混せて賣る、第三番目には一部分の脫脂と、

それから水の加入、斯う云ふ風に贋造をすることがあります、是は既に前にも申し上げました通りでございます。

それから牛乳を長らく放置して置くと酸が出來る、其酸を中和する爲にアルカリーを入れて酸性を幾らか弱めてやると云ふやうなことも健康に良くはないのであります、牛乳から拵えた所のコンデンスミルク、又牛乳を乾かして粉末に拵えた粉乳と云ふものがあります、是は長らく貯藏に堪えるやうに粉にしてそれを今度使ふ時分には水に溶して乳兒に與へるさう云ふやうな煉乳であるとか粉乳などを拵えるのに、實際は牛乳の中から脂肪などを拔取らないで全乳から拵えて行くのが本當でありますが、それを全乳を使はずに脱脂乳を原料として煉乳とか粉乳を拵える、是は屢〻行はれる贋造であります、バタはどうであるかと云ふと、バタに於ても矢張り不正の手段が行はれる、御承知の通りバタ即ち牛酪と云ふものは牛乳の中に入つて居る脂肪と、それから食鹽が入つて居る、さうして之に少し色が付けてあります此他に何等の餘物を混合してはいかぬ、水は無論適當の稠度に煉る爲に少しは加はつて居りますが、目方を增す爲にバタに水分を餘計加へるとか、或は食鹽を餘計加へる、是は夏向き腐敗し易いから食鹽と云ふやうな防腐力のあるものを餘計に加へる、夏のバタに對して餘計食鹽を加へると云ふことは、是は或は宜しいでありませうが、瞞着並びに贋造の趣意で以て水並びに食鹽を加へると云ふことは不正行爲と看做さなければならぬ、第二には廉價なる種々の動物性、或は植物性の脂肪をバタの中に加へる、どう云ふ風な物を使ふかと云ふと、植物性の胡麻の油であるとか、或は綿の油とか云ふやうなものと、それから動物性の脂肪を使ふ場合にはどう云ふやうな物を使ふかと云ふと、牛乳の脂肪でなしに、組織の間にある所の牛脂、ヘットと名けて居るものをバタの中に加へる、又硼酸であるとか、サリチル酸であるとか云ふやうな物を加へる、第四には腐敗しかゝ

つたバタに新鮮なるバタを加へて改造した所のものそれを新鮮なる牛酪と云つて賣ると云ふやうなことが行はれる。

それから又目方を増す爲に色々な鑛物性のものを加へることがございます、或は穀物の粉のやうなものをバタに加へて目方を増す、さう云ふやうな手段は屢々はありませぬが稀に行ふことがあるさうであります、それから又バタは多少黄い色をして居らぬと誰でも少し不味いやうな心持がするので羔黄と云ふもので黄い色を着けて賣る、是は一般に習慣上行はれるが決して惡い事でもありませぬ、所が有害性の色素で着色すると云ふことも極く稀にはないとも限りませぬ、

それから先程御話しました人工の牛酪と云ふものがございまして、マルガリンと名けまする、牛乳の脂肪から拵えた所の人工のバタであつて、それにバタと云ふ名を付けて賣ることは名稱を詐稱して居るのでありますからして之も無論惡い行爲であります、通例吾々がバタ〳〵と云つて居るのは大概マルガリンと名けまして牛肉の脂肪、ヘットの中に、ステアリン及び植物性の脂肪を混ぜて拵えた丁度バタと同じやうな稠度に出來上つたもの、それをマルガリンと云ひますが、日本に澤山這入つて居る所のものは大抵此マルガリンと云ふものに屬するので、それをバタと云つて賣つて居る、日本ではこう云ふものを取締る規則がないから構はぬでありませうが、外國ではマルガリンにバタと云ふ名稱を付けて販賣することは無論不正の行爲として取締られるのであります、食用に供する所の色々の脂肪竝びに油の類、さう云ふ物の中に直段の廉い油を混ぜる、是は屢々行はれることで、油の混じたもの試驗管を振つて試驗しても其眞僞を知ることが六ケ敷い、直段の廉い油を混ぜても分りませぬから、分らないと云ふ所に突込んで隨分廉い物を混ぜて賣ると云ふことが行はれる。

それから植物性の飲食物の中ではどう云ふことが行

はれるかと云ふと、第一米で之は日本人の常食でありまして三度三度必ず食べて居る所の大事な最も貴重なる食物であります、此米の中に砂を混せて居る是は米を搗きます時分に自然に混入して來る位ならばそれは已むを得ないことでありますけれども早く搗き早く白くすると云ふ目的で房州砂を加へますると非常に早く米が搗ける、此混砂米と云ふことは一時世上の問題になつたことであります、早く白くすると云ふやうな目的の爲に砂のやうなものを混ぜて搗く、是は無論其米は淅ぎますから其時分に流れるでありませうが、さう云ふやうな行爲は實際善くないことでありますから取締を嚴にしなければなりませぬ、此邊では如何であるか知れませぬが青森の輸出米を檢査する所からして私の所に照會して參つたので私が氣が付いたことであるが、米に石灰を加へる、どう云ふ目的であるかと云ふと、詰り之は嵩を殖す爲にやる、米をザッと蒸しまして其脹らんだ跡を瞞著する爲に石灰を被せて嵩を殖す爲にさう云ふやうなことをやるさうです、次に白粉を付けて居る、是は米が如何にも白い米であると云ふ外觀を與へる爲に使ふのである、さう云ふやうなことが青森縣等の東北地方に隨分あるさうであります、是はどの位の割合に入れるかと云ふと、此青森の米を試驗する所の調べに依ると、米四斗に對して五合位に石灰を入れる、無論石灰が入つて居つても米を淅いで流して仕舞へば構はぬではないかと云ふやうな御説もありませうが、又洗方が惡ければ石灰が殘つて居らぬとも限りませぬし、斯様なことをして嵩を殖して眞正の物であると云ふやうな風にして賣出すと云ふことは宜しくないことでありますから、飲食物取締の上から之を取締る必要がある。

其他穀粉、米とか麥のやうな穀物の粉類の贋造にはどう云ふことが行はれるかと云ふと、是は粉になつて居るから尚更贋造の發見が六ケ敷い、重量を増す所の目的に色々なものを附加する、例へば石膏細工に使ふ所の粉を混ぜる、それから硫酸バリウムと云

ふ目方の重い眞白なものを加へるとか、或は炭酸石灰、石灰、それ等の粉末を加へるのであります、或は陶器になる所の陶土と云ひまする白い土です、それを加へることがございます、それで一體目方で以て量る時分には悪い商人は目方を殖すことを考へ、嵩を量る場合には嵩を殖すと云ふことを工夫するのであります、それから安い粉類、豆の類の粉末であるとか玉蜀黍の粉末を直段の高い穀物の粉末に加へる、其他粉の色の悪いものを色を白くする爲に群青の如きものを加へる、青味がかつたやうなものを混せると非常に引立つて來て白い色が付きます、砂糖を精製する時分に初めは黒砂糖、其次に色がとれて來て褐色、それから薄褐色と云ふやうに薄くなつて來て、終には純白な砂糖が出來るのであります、其少し色が付いて居る所の黄味がかつた砂糖に少し青味がかつたものを混ぜますると非常に純白であるやうな外觀を呈する、斯う云ふやうなことも贋造であります。

それから麵麭のやうなものでありますと、わざと多數の水分を其中に入れて目方を殖したり、或は目方を殖す爲に先程御話しました石膏であるとか硫酸バリウムと云ふやうなものを加へる、其他有害性のものを加へる、麵麭を焼いたりカステラを膨らます爲に使ふ焼粉の中に硫酸銅であるとか、硫酸亞鉛であるとか、明礬であるとか云ふやうな有害なものを使ふことがあるのであります、それ等も矢張り善くないことであります、それから先程御話した貯藏野菜罐詰になつて居る野菜果實類の中に色を青くさせる爲に銅を加へる、色を著ける爲に少量の銅は許してありますが、身體を害するまでに入るると云ふことは許しませぬ。

それから其他青昆布、是は東京の方は召上りませぬが大阪地方では屢〻使ふのでありますが、青い色を著ける爲に矢張り銅を使ふ、それから矢張り罐詰になつて居る野菜或は果實一キログラムの中に一百ミリグラムまでの銅を入れることは許してあります、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

どうして之を拵えるかと云ふと、炭酸銅と云ふものがあります、俗に緑青と云つて居りますが、銅の器が段々空氣中に置きまするると、青い皮膚が出來る、それを吾々の方では炭酸銅と云つて居りますが、卽ち緑青のことであります、緑青とか膽礬などを鍋に入れまして昆布、刻昆布を浸たし青い色を著けると云ふことは昔から行れて居つた方法でありまして、近頃は青竹粉と云ふものを使ひます、大阪では昆布を著色しまするにはどの位の割合にするかと云ふと昆布を十八貫目、それに硫酸銅を二匁、大阪では松島粉と名けて居ります此はメチレンブラウとアウラシンと云ふ色素の混合物でありまして、其松島粉が一匁六分、水を三石五斛ですか、之を一緒に鍋に入れて掻廻して一時間置く、さうして乾しまするると昆布の表面に銅が附著して非常に奇麗なる色が出來る丁度法律に抵觸しない位の分量で昆布を染ると云ふ目的は達せられて居ります、東京でもさう云ふやうな方法で昆布を靑く染色することがあります。

それから香味料、食物を調理しまする時分に、味ひと香ひとそれから外觀を良くする爲め、鼻、舌、目此三つの器官を喜ばし興奮させる爲に壯快な香ひ又味のあるものを飲食物と共に吾々が取る、さうしますると其物は吾々の身體を養ふ爲に直接に榮養にはなりませぬけれども、第一美味さうな香ひであるとか、美味ひ味がするとか、或は外觀が非常に良いとか云ふやうなことがありまするると、吾々の神經の作用を刺戟しまして消化液の分泌を良くして行きますから、從つて消化が良くなると云ふことがあるし、食慾が付くと云ふことになる、其爲に香味料を取る例へば胡椒であるとか、芥子であるとか唐辛子であるとか薑であるとか山葵であるとか、カレー粉であるとか、さう云ふやうなものであります、此香味料の中に全く香味料として役に立たない、直打の安い植物性のものを加へる、或は一旦何か他の目的に使ひました、使ひ殼を入れたりすることがある、それから香味料に能く似寄つた物でアルカロイド含有

の嗜好品と云ふものがあります、ココワであるとかチヨコレートであるとか茶であるとか珈琲、煙草と云ふやうなものはアルカロイド含有の嗜好品の中に屬するものであります、先程御話した香味料と云ふものは主に揮發油を含んで居る、其他良い香ひを具へて居るものもあり、辛辣なヒリ〳〵する味のものも又辛く舌を刺戟するやうな味を具へて居る物質もあります、斯う云ふ物質は主に揮發油を含んで居るそれが爲に吾々の舌とか鼻を刺戟する作用を呈するのであります、此香味料に含まれて居る揮發油と云ふものは直接に香ひを臭ぐ所の嗅神經、味を感ずる所の味覺神經を刺戟して、さうして消化液の分泌を盛んにし消化機能を補佐する所の役目を持つて居りまするが、アルカロイド含有の嗜好品と云ふものは一旦血液の中に吸收されまして其後に初めて作用を呈するからして働きが間接になるのであります、其中で吾々が最も多く使ふ所のものは茶です、茶を贋造すると云ふやうなことは極く稀でありませうが、外國の例に依ると随分茶の贋造はないではありませぬ、矢張り異種の植物の乾いた葉を茶の中に混ぜる昔から日本でも茶の代用として使つたものはくこ茶木通茶、甘茶です、斯う云ふやうなものを茶の代用として使ひ、或は異種植物の葉を茶の中に入れる、單に異種植物の葉を其中に混ぜるのみならず、一旦茶の出からしたものを乾かして茶の中に混ぜぬとも限らぬ。

其他嗜好品としてアルコホルを含んで居る所の酒精性の飲料、即ち清酒であるとか、ビール、葡萄酒、ブランデーであるとかウイスキーとか云ふやうなものも使ひます、酒に致しましてはどう云ふやうな贋造がありますかと云ふと、矢張り酒に水を割る、東京邊りの酒は中には随分好い酒もございませうが、多くは問屋の方でやるか、小賣屋の方でやるか分りませぬが、升目を殖す爲に水を加へたものが大分ある、東京では殆ど大多數の酒は加水してあるだらうと思ひます、灘あたりで出來る酒は上等の酒であり

ますが、大抵小賣屋の手に渡つてから色々の惡手段が行はれて居る、最も屢々行はれるのは水を加へること、それから腐敗酒を改造して清酒と云つて賣るやうなことも隨分ありませう、酒の腐敗と云ふことを見るのは隨分六ケ敷いことでありまするが、酒屋の番頭程酒に對して鼻の鋭敏な者はない、吾々は手數を費して試驗しましても腐敗に傾いて居るかどうかと云ふことは到底分りませぬが、酒屋の熟練の人でありますると、鼻の先へ酒を持つて來て口へ入れぬまでに香りで腐敗に傾いて居るかどうかと云ふことが分ると云ふ話であります、酒が腐敗しまするとき酸が出來る、さうすると其中に何か石灰とかアンモニアとかを加へて中和してそれを賣る、斯の如く輕度の腐敗に傾いたものならば之を改造して純粹なる清酒として賣出すと云ふことも隨分あります、それと有害な防腐劑を酒に加へる、是は先づ水を加へると同樣に酒に對して最も屢々行はれる所の不正手段であります。

それから葡萄酒、是は先程も御話したやうに、葡萄酒は其成分を分析しましても是が眞正の葡萄酒であるかどうか、又贋造した所の葡萄酒であるかと云ふことの見分が實に困難です、多くの場合には極く巧妙に贋造してありまする葡萄酒でありまするを到底分るものでない、それで葡萄酒には最も屢々贋造が行はれる、人工で以て赤い色を著けたものか否やは分ることもありますが、葡萄酒の品質の良否は分析によりては分りませぬ、それからブランデーの如き蒸餾飲料になると有害な色素や或は有害性の香料を用ゆることがあります、倘注意すべきは其中にフーゼル油と唱へる成分の含まれて居ることです、一體酒の害はアルコールより起る害もありませうが、惡い混成酒のやうなものを飲んで翌日まで頭が重いとか、或は二日酔をすると云ふやうなことは主に此のフーゼル油の作用に外ならないのであります、此のものは矢張り日本酒にも入つて居る、斯う云ふやうなものは衛生上最も注意しなければならぬことで

ある、日本では燒酎とか泡盛、外國ではブランデーのやうなもの丶中に含まれて居ります。其次に酢の中には酒の滓を醱酵して拵えたものもある、又酒が腐敗した場合に、之を醱酵さして拵えることもある、それから近頃は人工で醋酸を稀釋して造る所の人工の酢が最も多いであらうと思ひます、此等の酢は衞生上害はありませぬが、硫酸とか鹽酸とか云ふやうな無機性の酸を混じて居るものは害があります、其他酒石酸でおりますが、是は比較的害が少ないのでありますが蓚酸のやうなものを使つた酢は衞生上直接に有害なものであります、其他防腐劑を加へるとか有害性の色素を加へると云ふやうなこともあります、デ嗜好品と云ふものは種類が多いからしてナカ〳〵一時に細かに申上げることも出來ませぬが、大體唯今申上げましたやうな次第で皆樣方が御考へ及ばないやうなことを世の中では隨分やつて、唯利益と云ふことばかりに重きを措いて、吾々の貴重なる健康と云ふものを度外視して色々不正な手段が行はれる、それで我國でも早く獨逸のやうに衞生上有害なもの、衞生上危害を及ぼす所の虞れあるものは無論の話、其他に於きましても人を瞞着する目的で贋造をし、或は模造をし或は變質した所のものを賣つたり、或はそれを拵えたり或は其ものを店頭に陳列して居ると云ふやうな者に對しても相當の處分を行ふてそれを嚴重に處罰すると云ふ飲食物の取締規則が發布になつて其規則が勵行になつて一日も早く安心して飮食物を求めることが出來て吾々の健康に保證が出來ると云ふことにならむことを望む次第でございます。

此飲食物取締と云ふことに付ては、唯法令が出來たからと云つてそれで完全に目的を達するものでない、法令が出來たならば其法令を十分勵行しなければならぬことは無論の話であります、是は吾々の任でなしに行政の衝に當る所の人の責任でありますが飲食物取締と云ふものは、唯取締規則のみで足りる譯でない、公衆一般の衞生思想が段々發達して來

て、それを買求める公衆それ自身も矢張り或意味に於ては取締る位置に立つて、若し自分が買つて居る所の品物の中で怪しいやうな物があれば、臨機に警視廳に持つて行くなり、衞生試驗所に持つて行くなりして試驗を願ふとか云ふやうなことをして、一般の人民の衞生思想と云ふものが發達して、成たけ買ふ者それ自身が無害の品物を手に入れるやうに注意しなければならぬ、それから衞生上害のある物と害のない物との差別があるが、品物の內部の化學的のことを知ることは六ヶ敷いことではありますが、外觀上分り易い區別の方法の一通りは心得て居つて害になると云ふやうな虞れがある物を買はないやうにし、若し怪しい物を買つた場合には相當の所に持出して試驗を願つて、以後再び其商賣人の家では買はないやうに購買者それ自身も衞生思想を有つて多少監督する心懸けでありたい、自分の身に關ることでありますから、さう云ふ點に迄も注意しなければならぬ、其國民の衞生思想が發達しない以上、縱令國家が幾ら飮食物の取締に盡力しても完全に其目的を達することは出來ぬことであらうと考へます、それに付て御婦人方は男子よりも飮食物に付ては緣が深いのでありますから、皆樣方に飮食物に關係する所の衞生と云ふことに常々御注意を願つて平素より健康を害せないと云ふ覺悟をされることが最も必要なことであらうと考へまする、甚だ詰らぬ御話を致しまして長らく御淸聽を願ひました段は幾重にも御詫を致します。

○正　誤

本誌前々號ノ講演欄內「身體及其保護」ト題スル文中六頁目「第六病的性格」以下ハ三頁目下段ニ「此の如き次第で」云々ノ前ニ入ルベキヲ誤テ前後セシニ付茲ニ是正シテ其粗漏ヲ謝ス

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

叢談

貝原益軒先生（口繪參照）

富士川游君

私は、今年の春、用事があつて、筑前の福岡に參りました時に、有名の儒者、貝原益軒先生の墓に詣でました。先生の墓のあるのは、金龍寺といふ寺で福岡の町の中央からは、大凡小一里もありませう、西町といふて、市街のはづれで、寂しい所でありますが、どういふ次第か、寺も大層にさびれて居るやうに見受けられました、しかし先生の墓は、夫人江崎氏の墓と併びて、墓地の片隅に、嚴然と立つて居ります（口繪に掲げたるはその前面であります）。貝原益軒先生といへば、世間の人は、大抵その名を知つて居りませう。寛文から元祿の頃にかけて、天下に名高い儒者で、德行のすぐれた人であります。その生れは筑前の國福岡の人で、父は黑田侯の醫官であります。益軒先生は小供の時から學問が好きで兄の存齋といふ人に、四書や五經の句讀を受け、それから色々の書物を讀むで、頭角を顯はされましたが、明曆三年、年二十八歲の時に、藩侯の命で、京師に留學し、前後六年ほど京都に居られまして、學問は中々に上達し、その名は遂に天下に聞ゆるやうになりました。それから福岡に歸りて、黑田侯に仕へ、儒官となられましたが、其年、三十九の時に、江崎廣道といふ人の娘で、初といふ人を娶られました。この江崎氏といふ人も、婦人でこそあれ、中々の學者で、字を得生、號を東軒といひて、經史に通じ、隸書を巧みに書き、和歌も上手によまれたといふことであります。益軒先生は、儒者の中でも、見識の高い人で、外の人のやうに、六ケ敷い漢文や、役にも立たぬ詩などを作つて、獨りで喜で居るといふことをせず。畢生の力を、學問の研究と、敎育の

普及とに盡した人で、徳川三百年の間に、比類の少ない德望の君子であります。

益軒先生一代の著述は、百餘部、二百七十餘卷もあるといふことでありますが、先生の眞意は、たゞ人世を裨益するのが、學問の本色であるといふことにあるので、その著述でも、經學に關するものゝ外は皆假名交りの文章で、極めて平易に書いてありまして、外の學者が、名利のために著述したものとは全く相違して居ります。

益軒先生は經學ばかりでなく、本草學といひて、今日の植物學の一部門のやうなる學問にも達して居られまして、先生が著はされました大和本草といふ本は、西洋の學者も尊重して居ります。そればかりでなく、先生は大層、衞生の事に、心を寄せて、この道には、大に功績のあつた人であります。

元來、益軒先生は、生來虚弱で、多病の質であつたから、初めは醫術に心し、頭の髮を剃つて、柔齋と名乘り、醫學を勉强せられました。それで衞生のことには、始終意を注がれまして、頤生輯要五卷（五十三歲の時の作）養生訓八卷（八十四歲の時の作）の著述がありまして、飮食のことから、平生の養生病氣の心得、老を養ひ、幼を育つることなどのことまで、最も深切に、書いてあります。

養生訓の中に『人の命は、我に在りて天にあらずと老人いへり、人の命はもとより天にうけて生れつきたれども、養生をよくせば長く、養生せずば短かし、されば長命ならんも、短命ならんも、我か心のまゝなり、身强く生まれつきたる人も、養生の術なくば早世す、虚弱にして短命なるべしと見ゆる人も、保養をよくすれば長命す、これみな人のしわざなれば天にあらず』と、書いてありますが、これは益軒先生が、自分の經驗から言はれた言で、先生は、前にも言つた通り、幼少の時から身體が虚弱であつたので、平生養生といふことに注意をして、重い病氣にも罹らず、八十歲を過ぎてからも元氣がよく、八十一歲から死ぬるときまで毎年一部か二部の著述を

公にして居られるほどで、實に衞生法の成功者といつてもよろしい人であります。

先生の說に『養生の術といふものは、天に順がひ、欲を節するのが肝要である。然るに、支那の養生家といふものは、多くは方外術士の徒で、其書物には虛妄不經の事があつて、その術は德義の則に順つて居ない』といふて、先生は、諸家の書の中から、確實有益と認むるものを拔いて、これを自分の實驗に照して、頤生輯要五卷を編まれたので、實にその學問に忠實なることに感服せねばならぬのであります。

『養生の術は、まづ心氣を養ふべし、心を和かにして、氣を平かにし、怒と慾とを抑へ、憂ひ思ひを少なくし、心を苦めず、氣を傷はず、これ心氣を養ふ要道なり、又臥すことを好むべからず、久しく睡り臥せば氣滯りてめぐらず、飮食いまだ消化せざるに早く臥し眠らば、食氣ふさがりて、其元氣をそこなふ、戒むべし、酒は微醉にのみ、半酣を限りとすべし、食は半飽に食ひて、十分に充つべからず、酒食とも限を定めて節をこゆべからず、凡そ養生の道は病なきときにつゝしむにあり、病おこりて後、藥を用ゐ、針灸を以て病を攻むるは、養生の末なれば、本を務むべし』と、益軒先生が、養生の法を說かれたる言は、皆一々、自分が實驗したことでありまして、今の衞生家と稱するものが、たゞ口頭に八釜敷言ふて、實際は不養生のことをして、其命を失ふものとは全く相異して居るのであります。

夫人の江崎氏は、十七歲の時に、益軒先生に嫁し、六十二歲でなくなられましたが、この夫人の著述には女大學といふものがありまして、誰人もよく知つて居ります　、その書の内にも、婦人の身のつゝしみか委しく書いてあります。

益軒先生は正德四年八月二十七日『こしかたは、一夜ばかりの心地して、八十路あまりの、夢を見しかな』といふ辭世の歌を遺して、なくなられました、年は八十五といふことであります。

運動の本旨

醫學士　X　生君

○體育の目的は單に筋骨の發達と體力の增進とを得んと欲するばかりでなく、精神の用具である身體をして常に其命に應じて、迅速活潑に能く其用を辨せしむる如く練習せしむるが爲めである。サレバ體育の方法たる運動の樣なものも、よく身體の生理解剖の方則に適合せしむべき筈のもので、之が爲めには全身の要求に適する樣に運動するのが肝要である。

○身體の態度姿勢に注意し、坐臥進退能く其節を保つ樣にするのは、差し當り運動の要素である。此の如くすれば體內の諸機關も亦た自然の位地を保ち、其機能に支障なく、其榮養も完全で、何等の苦惱をも釀さぬのである。

○人體の機關中には身體の物質を消費するものと、之を供給するものとがある。此消費と供給とが絕へず平均して其節を誤らざる場合を、完全なる健康狀態と云ふのである。

○サレバ吾人は能く此方則を辨へ、物質を消費する機關を使用する前には、必ず之を供給する機關を働かして置かなければならぬ。腕肥へたりと雖も、脚太くなれりと雖も、消費と供給との不平均なる場合は之を健康とは云ひ難い。世人の多くは運動の目的を以て單に四肢を肥大ならしむる爲めばかりと思つてゐる、誤れるも甚しい。事に當り時に臨んで使用に堪ふべき身體をつくると云ふのが、運動本來の主眼である。

○運動の際には身體の諸機關を自由ならしめねばならぬ、諸機關を自由ならしむるには特に運動衣の必要がある。

○運動をするには能く自己の體質と健康とを知り、之に適當する運動法を講じなければならぬ。海水浴が如何に健康に良いからと云つて、心臟の弱い人には禁物である。やゝもすれば腦貧血を起し易い者が腦充血の傾ある者と一緒に同運動をなすのは惡い。

○最良なる運動は樂しんで身體を勞することである。心常に鬱し、思ひ絶へず面白く無くば、二六時中その手足を休めないでも決して健康の助けとはならぬ、婦人にとりて大なる身體の運動となるのは、樂しき心とよろこばしき思ひとを以て家庭の雜務をなすにある。食卓を掃除し、食品を調理するのは胸と腕とに最良の運動を與へる。雜巾がけは體育場で行ふと同樣な運動となる。衣服の洗濯の最中友達から見られても何の恥づる所もない。

○月經其他の身體の事情に妨げが無く、學務にも餘暇があれば能く〳〵晴雨を見計らひ、二三の友と連れ立ちて郊外に遠足を試み、山青く水白く、氣澄み塵あがらざる自然の景に接するが良い。朝夕閑暇のある人は空談雜話に費さないで、之を散步に利用せんこそ願はしい。人の一生には種々樣々の忙がしい用事があるが、運動によりて健康を增進するのは分けても重要な仕事である、遊ぶのが寧ろ働くのである。

○何事によらず放縱で不規則なるのは好ましくないが、分けて日常の運動はすべて規則正しくし。一日中の一定時間は必ず之に費す樣にするがよい。意にかなへば疲れ果てる迄運動し、氣が進まなければ縱のものを橫にもしないと云ふが如きは、極めて厭ふ可き惡習で、斯樣にすれば遂には運動と云ふものを全廢する樣になる。況して氣鬱し心くもり、胸中晴れ〴〵しからぬのは運動不足の女子に多く見らるゝ處で、身體の新陳代謝が不充分な爲めである。サレバ心が進まないでも勉めて運動に心掛け、沈む心を引き立てゝ活潑に運動するのが策のまされるものではないか。

○何れの運動によらず其度をすごし、打ちつかれて顏色蒼ざめ、數日の間元氣の恢復しない樣なのはよろしくない。一時の興にかられて運動に耽つてはならぬ。すべて體力を增進し健康を保んずるには、目前の小快樂を將來の大なる幸福のために犧牲に供さなければならぬ。

牛乳の話

醫學士　ふ、わ子君

○牛乳は最も需要の廣い榮養品の一で、滋養物はと問へば三歳の小兒でも牛乳、卵、肉汁と卽答する程であるが、悲ひことには日本では未だ、牧畜業が進まず、從て其價も高ひが爲か、之を用ふる者は、多くは病人若しくは精神を勞する者に限られて居る。獨逸の、ミユンヘン市では一人一日の用量が、約五百六十瓦、巴里では二百三十瓦、倫敦では百十瓦位だといふ事である。

○牛乳の中には蛋白、脂肪、含水炭素、鹽類等の重要成分を一定の比例に含有して居るので、大人が牛乳のみで生活しやうとするには、一日約一升五合程飲用すれば澤山である。然し此成分が、母牛の種類と、年齢と、飼養法とに由り異る者で、一般に春夏には秋冬よりも脂肪が少く、朝の牛乳は夕のより脂肪が多い。不良なる食品で養ひ、又は勞働をなさしむる時は水分が多くなる。又母牛の病氣のため與へたる一定の藥品と食物とは其牛乳の中に出て、其皮膚に附着したる汚物も吸收せられて乳中に現はれ出る。殊に乳牛の殆ど半數が襲はるゝ所の牛結核の病毒も乳汁中に出で來るので、其傳染の危險が甚だ多いのである。有名なる黴菌學者のコッホ氏は數年前牛の結核と人の結核とは全く別種の者なりと唱道したが、然し多くの學者は尙ほ之を疑つて、ベーリング氏の如きは大人若しくは小人の腸結核は全く牛乳を介して牛結核が傳染するのであると主張して居る故に今日では、牛結核取締規則があつて「ツベルクリン」と云ふ藥品の注射で乳牛が結核なるや否やを判定して、疑はしき母牛の乳は販賣を禁めてあるが狡猾にして利にのみ敏き牛乳商が、種々の奸計を弄するので、彼の大文字で「ツベルクリン」注射、無菌全乳など〻書いた車を引廻はして居ても少しも當にならぬのである。況んや人乳と異りて各種の病原菌を含むこと多く、甚だしきは一立方仙迷の牛乳中

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に十萬を數ふる程の細菌が居る事があるとのことである。彼の時を經た牛乳が或は酸くなり、或は苦くなり、或は青色、紅色、黄色等を呈し、或は凝固して粘狀となるのも皆各種の黴菌の作用である。

○加之、乳房の搾り人の手、容器の不潔、牛舍の塵埃、大小便の混入するのも少からぬので、其儘飲用するのは極めて危險である。故に是非共之を煮沸して殺菌しなければならぬ。然し餘り高熱では佳味を害ふの恐れあるが故に徐々に熱する方がよい、煮沸によりて黴菌及塵埃をば充分殺菌した所で、次に注意すべきのは奸商等が奸手段を弄して製造する僞造牛乳の多きことである。若し彼等に欺かれて是等の僞造牛乳を飲用して居れば何升用ひた所で、效能のあるべき筈はなく、效能のなきはよしとするも僞造方法によりては甚だしき害を及ぼすことがある。

○水を加へて其分量を増加する奸商もあるが、幸ひに其水が殺菌水であれば牛乳が稀薄て、滋養價が少いと云ふだけで濟むが、病原菌を含有している不良水を混ずる時は、撲滅に苦しむ病氣の流行を來すことがある。

○牛乳の榮養價は其中に含まるゝ脂肪の多少に由り決せらるゝ事が多いが、例の奸商は此脂肪を拔き取つて別に牛酪を造るか、或は他の高價なる濃厚牛乳を製し、かくて脂肪缺乏の殘物を販賣し、或は牛乳に上下の區別をなして市に鬻ぐのである『知らぬが佛』とは申しながら欺かるゝものゝ迷惑は甚しき者である。

○是等の奸策を看破するには比重計を以て其の比重を計り平均比重一〇三三、四に照して見る、又脂肪計によりて脂肪の多少を判定して牛乳の良不良を申し渡す。若し、米の淅ぎ汁を混ずる時は一定の藥品の澱粉檢査と顯微鏡檢査とによりて明白に知る事が出來る。其他種々の藥品を混じて欺かんとすれば我にも其備へありて化學的檢査によりて之を曝露することが出來るのである。が、信用を第一とする商人がかゝる不正手段によりて不正の利を得んとするの

は、重ね〴〵慨嘆すべき事で、吾人は商人道徳の更に進捗せん事を望んで止まぬのである。

○嬰兒の養育については母の乳に若く者なく、母乳は實に天與の榮養品である。故に母體にさしたる異狀なく、乳房に疾患ありて授乳に差し障りの生ずる如き事がなければ、必ず母乳を用ふべきで、止を得なければ乳母を撰雇するか、或は人工養育法によりて牛乳を用ふるのである、然しながら人乳と牛乳とは多少其成分に異なる所がある故、大に其點に注意しなければならぬ。

○一般に牛乳は人乳よりも多量の蛋白、脂肪及鹽類を有してゐるが、却て糖分が少量である。

○人乳中の乾酪素が凝固する時は粗軟の細片となり消化も極めて良好に、吸收も迅速であるが、牛乳は緻密に凝固したる片塊となる故、其消化が人乳よりは悪しく、且つ人乳よりも醱酵作用を起すことが速かである。

○牛乳は榨り取つた時間より哺乳する迄に至るに一定の時間を經過するので、種々なる黴菌及異物が混じ易く、從つて或は變化し、或は分解作用を起すに至る。

○故に牛乳を以て嬰兒を養育する際に、大人と同様な積りで之を用ふれば、未だかよわき胃腸の粘膜を害し、疾病狀態に陷らしむるのである。故に水分を加へて一定の稀薄度となし、糖分を加味して人乳と大差なきに至らしめて之を嬰兒に試み、其消化の模様を檢して、後漸を追うて濃厚なる牛乳に移り行く様にするのが肝要である。此際加ふる糖分の量は大略牛乳百瓦に付き四瓦位の割合がよい。

○其加入すべき水量は小兒の年齢と强弱と、發育狀態とにより多少の相異はあるが大體生後一ケ月位迄は三倍、二ケ月位迄は二倍、五六ケ月位迄は一倍の割合に薄める。其うすめる水は一旦沸騰して殺菌したものを用ふるのは云ふ迄もない。

○煮沸して殺菌すれば牛乳は安全な衞生飲料の様に思はれるが、煮沸すれば大に牛乳の性質を變じ、甚

だしく有效成分を減ずる。サリトて煮沸しなければ危險此上も無いのである。普通の淸水でさへ生の水と沸騰した水とは成分が違ふ、生の水には身體の構成に缺くべからざる種々の鹽類が溶解してゐて其味ひも頗るよいが、一旦沸騰さした水は此溶解成分が沈澱して仕舞ふから味も惡く身體構成にも資する所が乏しい。故に沸騰した水のみを飮料とするのは望ましくない。煮沸した牛乳が小兒養育によくないのは此一事だけでも明かである。

病中に於ける頭髮の養生

S、N、君

丈の黑髮と云ふ言葉ありて、頭髮の房々として長く美しきは昔より美人の資格の一大要素として數へられてある程で、頭の毛が婦人の風彩の上に重大なる關係を有するのは今更言ふ迄も無いが、その外に頭を保護する上にも亦甚だ必要な役目を持て居るものであります。重い長い病に、罹れば、その間に美しかりし黑髮も短かく切れ、自然と脫落するのは當然のことではあるが、或程度迄は之を防ぐことが出來るのであります。

病氣になると殊に無性に成り、毛の手入れなぞは平生よりも尙更怠り勝ちになるものですが、其上長い病氣では頭の神經も亦共に銳敏になり、毛を櫛る度毎に痛みが強くなる故、自然髮の手入れは出來なくなるのであります。かゝる場合に頭の毛全體を一度に櫛くとすると甚だ困難でいやになりますから、每日少しづゝ手入れをすると良い、例へば今日右の鬢に手を入れたら、明日は左、次には前後と次第に少しづゝやればよい、勿論何程少しづゝやつても痛い事は多少痛いが、少しづゝなら痛みも從つて少しですむ。痛い〳〵と云ふて少しも手入れをせずに置けば、遂には網の如くにもつれて手の付け樣もなくなります。

每日少しづゝ櫛るには、髮を結はずに緩く卷て置く

生來髮が硬く脆い人か、又は鱗屑の多い人は健康の時なら度々洗ふことも出來ますが病中ではそれが困難でありますから、「オレーフ」油をよく塗り付けて櫛るのがよい。

場合によりては六ヶ敷い注文ですが、出來るなら常に一方のみを下にして臥ることの無い様にする、常に一方のみを下にして寢ますと下の方の毛は常に壓し付けられてもつれ易くなり、從つて櫛る際に多く脱ける恐れがあります。毛のもつれるのを防ぐ爲めに時々粉をふり掛けて置く法もありますが、その粉の爲めに毛は一本一本別々に成りますから、梳す時に甚だ容易であります。かくて一通り櫛の齒の通つた後で急に荒く扱ふのはよくない、靜かにすきて清潔に保たねばなりません。

髮は頭の皮の中に根が有つて、それから成長するのですから、毛根の榮養を善くするのは必要であります。が、病中は毛の生長も榮養もわるくなるものでありますから、急にそれに對する處置をするよりも却て只清潔にしよく手入れをして毛の切れること脱けることを防ぐ方が急務であります。

頭髮の次に病中注意すべきのは睫毛であります、睫毛の長いのは甚だ愛くるしいもので、人の眼の表情に富んでゐるとか、又目付の愛らしいとか云ふことは、重に睫毛の長いのに原因するものであります目付の愛くるしいのはやがて顏全體に趣を添へる譯で、睫毛の養生に心を用ゐることは實に無益でないと思ひます。然かも睫毛は頭髮と同じく啻に美と云ふことに關するのみならず、目を保護する役目も持つてゐるからであります。

然らば睫毛の養生は如何にするかと云へば、甚だ簡單で、只清潔に保てば可いのであります。卽ち朝顏を洗ふ時に少しく注意すれば何の面倒もない。又脂肪が餘り少ないと思へば柔かい「ハケ」で少し油を付けてこする、又目やにが出ればそれが固り付く故溫湯にて洗ひ落す、病氣が全快した時も直に垢を洗ふ、溫湯と石鹼で洗ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

能く洗ひ終れば頭の地と毛によく水油を塗り付ける。短く切れた毛は同樣に清潔にして油を塗り置けば、元來毛根は健全に殘てゐるのですから、自然に毛は伸びて元の如く丈に餘る黑髮となります。

櫛は使用する前に消毒液に綿を浸し、その綿で一度よく拭く。使用した後には又綿で充分に拭ひ清めて置く。頭髮は當分二日置き三日置き位に叮寧に洗ひ油を塗りて柔かに卷て置くか、或は結ふて置くのがよい。

若し病氣が傳染性のものであれば、頭の道具(櫛、笄、等)も亦衣類と同じく使用後は充分に消毒する其際櫛を拭ひた綿紙等は其度毎に燒捨てる。

櫛の消毒は色々の消毒液に浸して置くのもよひが一〇〇〇倍の汞、或は硫酸氣で蒸してもよい、硫酸を皿に入れ開放せる窓の下にてその皿に點火し、硫酸の蒸氣の上に櫛を火箸の樣なもので挾でかざすのでありますが、此の如く充分消毒して置けは、後で使用することも出來又他に傳染する恐もありません。

眼球のとび出る病氣

東京醫科大學　神尾　驥君

眼球がとび出ると申しましても、昔の繪にある樣に眼球が顏をはなれて、とびだすのではありません、眼の球がじり／＼と出てくるので、始めの程は氣がつきませんが、だん／＼高度になつてくると、一見異樣な容貌となります、即ち眼球が出てくる爲めに兩眼瞼は上下へとおしのけられ、上下兩眼瞼の間は大きくなり、眼球の大部露出する事となりますから眼球が非常に大きくなつた樣に見えます、猶甚しくなる時は、眼を閉づる事が出來なくなる事も少くはありません、その上、上眼瞼の運動は不完全となりまたゝきする事も、普通の人よりは少くなります、又た普通の人では、下の方を見る時は、上眼瞼は、眼球の運動に伴ふて下の方に向ふものでありますが此患者には此が出來ません、下の方を見ても、上眼瞼は元の位置に止つて居りますから、白眼が澤山出

來ます、其爲めに患者が下を見る時は、一寸恐しい容貌を呈します。

斯樣な眼球の變化は、いろ〱の眼病にも見る事がありますが、此所に眼球のとび出す病氣といふは、一種面白い內科的疾患でありまして、此外に三つの徵候をもつて居ります、簡單に順序を追ふて御話しいたしませう。

一、健康な人は年齡に應じて凡そ一定に脈搏の數を持つて居ります、子供では早いけれども、二十歲位から六十歲位迄は、平均一分間に六十八九あります此患者の脈搏は非常に早くなりまして、一分間に百から百二十位に達し、甚しき場合には百六十にも達した例があります、稀には八十位の事もあります、此脈搏の數は始終同じではありません、睡眠中には著しく少くなりまして、時としては普通になる事も少くはありません、此の脈搏增加は、心臟の多大の活動を要求します、故に過度に働きます結果として、心臟は普通よりもずつと大きくなるのです、丁度勞動者の手足が勞動につれて肥大するのと同じであります。

二、次に著しいのは頸部における腫れ物であります、此は一目見ればすぐ氣のつくもので、目の球が大きく咽喉がはれて居る時は、もう大抵此の病氣である事が想像できます、或名醫は柵の外の患者の診斷をつけたといふ話しがありますが、此病人は實際、柵の外に居ても此れだけにて診斷がつく位です。

此のはれものといふのは、頸の正中にありまして、俗にいふ喉笛のすぐ前にあります、元來人間には未だ母體內にあつた時代に咽喉部に大きな機管を備へて居りましたが、人生の生長と共にだん〱小さくなつて、後には唯喉頭の前部に附著せる小機管たるに過ぎないものとして殘つて居ります、解剖學上此は甲狀腺と申しましてその作用は充分に知られて居りません、併し全く不必要なものでない事は、此を切取たる人又は動物は一種の病氣にかゝります、そ

して遂に死を以て終るものであります、其形が昔武士の用ひた甲に似て居るといふので甲狀腺と名づけてあります、そこで此の患者の頸部のはれ物と申しますのは即ち此の甲狀腺がはれるのであります、故に全形は甲狀をなして軟かであります。

三、最後に來るのは、患者に手をのばさして見る時は細に指尖が振動するのであります、此は神經衰弱やヒステリーに來る振顫と同じものであります。

以上眼球における變化を合せて四徴候を供べて、居る素人にもわかる面白い病氣があります、此は今急に此世にあらはれた病氣ではありません、既にずつと昔からありまして、且つ世界中何所の國にもあります、また左程めづらしい病氣ではありません。

患者自分で感ずる苦しみは大したものではありません、時々動悸を感ずる事がある位の事で、此は殊に運動の時に著しくなります、時としてまた患者が甚だ暑く感じ非常に發汗する事があります、その爲めに冬も汗を出して困る事があります、此に付て一寸面白いのは、此患者と他の患者と一室に入れられてある時に、二人で互に暑い寒いといつて爭つて、窓をあけたりしめたり幾度も繰返す事があります。

此の病氣は前にも申しました通り、昔からあつたものでありますが、千八百四十年獨逸のバセドウと申します醫者が始めて詳細に記載しました、それで獨逸學派では、氏の名譽の爲めバセドウ氏病と名づけて居ります、併し英國では既に五年前此の病氣の事を報告した醫者があります、グレーブスといふ人であつたので英國學派では專らグレーブス病と申します、然し古い記錄を探つて見ると其前にもパリーといふ人が報告した事があるそうですが、それは埋れて居るらしいのです、伊國ではまた千八百五年に、フラヤニーといふ人が既に記載して居ると申すので氏に名譽を歸せんとして居ります、名は何れにしても宜いが、日本では獨逸學派の學者が多いので、一般にバセドー病といへば通用いたします。

そこで此病氣の原因は未だ確にはわかりません、併

し、いろ／＼興味のある關係が醫學者間に認められてあります。

第一に此病氣は神經系統の病氣と密接なる關係をもつて居ります、即ち此患者の一族にヒステリーとか、癲癇とかいふやうな、精神患者を出す事が少くありません、そればかりでなく、此病氣がある精神の強き興奮の爲めに起る事もあります、甚しき煩悶憤怒または恐怖の如き此病氣の發生を助ける事があります、近く例へて見れば商業上の損失、或は失意の樣な精神的負傷は確に原因の一つと見得る事があります、併し勿論此の一事のみが原因をなすものではありません。

次に精神病は遺傳いたしますが、バセドー氏病も遺傳いたします、併し此も必ず遺傳するとは申されません、少しも遺傳的關係の見られないものも澤山あります、また變形遺傳と申しまして、神經質の遺傳が形をかへてバセドー氏病となつて表はるゝ事があります。

第三にバセドー氏病は、結核と密接なる關係を有して居ります、即ち肺結核の素因を有して居る家族に生ずる事が比較的多いといふ事であります、然し其間にいかなる關係がありますかは、まだ確定してないのであります、嘗て大學病院に入院した患者に其の一例がありました、其の人の身の上をきゝますと實に憫然たるものがありましたので、また忘れられません、簡單に話して見ませう。

患者は三十歲の官吏でありましたが、父はその幼時肺結核で死んだそうでよくは覺えないそうであります、母は二十歲の頃失つたそうですがそれも肺病と銘うたれて居ります、兄弟といふのは姉が一人あつたそうですが、此も結核の犧牲となつて居ります、で彼は一族の中唯だ一人の生存者でありますが、二十何歲とかに彼は一處女と結婚しましたが、鴛鴦の夢猶熟せざるに、彼の愛妻は一子を殘して世を去りました、此の精神的打擊は此病氣を起すに最も有力のものであつたのでせうが、不幸は猶ほも彼の身に

つゞき起りました、彼は再び妻を娶りましたが僅か數年にして、彼が二十九の年またも肺結核でたほれたのだそうです、此のうちつゞきたる悲慘はいかにたえ難かつたのでせう、遂に彼自身を病院に追ひ込んだのであります、彼の愛妻のかたみなる一子はまだ七八歳の小兒で無邪氣に病院に遊んで居りましたが、いつ覺えたのか私を見るとバセドー〳〵と呼んで居りました、思ひやる毎に涙を禁じ得ませんでした。

其他の原因的關係につきましては種々の說がありますが、茲に注意すべきは婦人科的疾患と關係を有する事であります、此は丁度ヒステリーが婦人科的疾患と密接なる關係を有すると同樣の理に基づくのかも知れません、殊に妊娠中にバセドー氏病の第一の徵候を見た例も多いとの事であります。

斯樣な特徵を有し、また斯の如く種々の關係を有して居る此病氣は、婦人殊に中年の婦人に多いといふ事は注意すべき事項であります、男子よりも女子に多いといふ事は、恰も、ヒステリーが男子よりも女子に多いと同じ理によるのかも知れません、卽ち女子は男子よりも神經質で、些少の事件も其の胸を惱ます事が多い爲めだろうと思はれます、それに女子には男子になき妊娠其他バセドー氏病を起すに都合のよい種々の病氣を有して居ります、此れも女子に多い所の一理由とすべきでありませう。

また中年に多いと申しますが、此は多分精神上の關係から來て居るので御座いませう、卽ち人の心は二十歲前後に於て、最も興奮し易くなります、從て種種の周圍の事情はたえず、其心を刺戟しまして、靜穏を保つ事が中々むづかしくなります、爲めに種々の方面に於て人は煩悶もし悲觀もします、是等が多分中年に於てバセドー氏病の多い理由となるものかも知れません。

活ける家（承前）

醫學士　渡邊房吉君

（十九）活ける家の一の門

食物と飲料とは口を通つて胃腸へと行く、戸惑ひして鼻へ入れば「クシャミ」が出、耳へ入れば耳が鳴り痛んで遠くなる。口へ入つた飲食物には必ず一定の味ひがある、甘くも無く酸くも無く、うまくも無くまずくも無ければ『之は無味だ』と云はれる事もあるが、苟も自然が飲食物と定めた物、我々が飲まれるだらう食べられるだらうと想像し得る物は、

　舌に觸れて皆夫れ〲の味を出す

人の好んで食する物は凡て美味を有し、美香に富み美觀を呈する。遠い神代の昔しから人の食うと欲なかつた物、食つてはならぬと禁じられてあつた物は其味ひと云ひ香りと云ひ見たところと云ひ、凡て人を嫌厭らせる所がある。強いて斯樣の物を食べれば我々の活ける家も次第〲に破壞れて仕舞ふ。故に嘗めて味の惡いものは口へ入れるな、見て甘そうでない物は之を避ける樣にしろ、嗅いで香りの惡いものには近付かぬやうにしろ。

　味覺と視覺と嗅覺とは食物良否の判斷者

であるから、此三者に相談して口へ入れるやうにすれば間違ひは無い。實際上眼や鼻が味ひを助けるのは少からぬもので、牛を撲殺するを見ては牛肉もまづい、くさい豚の香ひを嗅いでは豚の肉もうまく無い、松茸なども匂ひがうまいのやら味ひがよいのやら分からぬ、葡萄酒の樣な物も眼で第一にうまくなる。

舌の根と尖端と邊緣とには味覺を司る所がある、舌の中央には無い。甘味は舌の尖端で感じ、酸味は舌の邊緣で感じ、辛味は最も能く舌の根で感じられる。本來物の味は甘、酸、苦、澁の四種である。甘いか、酸いか、苦いか、澁いかゞ基礎で、之に他の味ひが混和して辛いと云ふ樣な味ひの出るものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

香ひの感覺は瓦斯體で起される樣に、味覺は液狀のものによつて起される、口の中で溶ける物でなければ甘いまづいと云ふ感じは起らぬ、鵜呑みにしては味ひが無い、幾度びも咀嚼いて始めて美い味ひが出る。咀嚼玩味と云ふ事は實に味ひのある言葉である。『食べる時に饒舌をするな』とは儒敎の敎訓であるが、『饒舌をしても良いから徐かに能く嚙んで食べろ』とは、衛生學上の敎訓で、急いで食べるのは禁物である。アメリカ人は一般に性急で、『時間は金』と云ふ金言ばかりを遵奉し、大急ぎで食事をするのを常とするから、胃病患者が總じて多い。急いで食事をする弊は獨り胃を惡くする計りで無く、

味覺の發達

を妨げる、味覺の鋭敏は生活の愉快を增進する方法である。料理人などは何處の海で捕れた魚かを嚙み分ける、茶人などは何處で產きた茶であるかを飲み分ける。飲食の愉快を解そうと思ふ人は、徐かに能く咀嚼いて其眞味を味はなければならぬ。『食へども其味ひを知らず』と云ふ樣な迂濶は吾々の欲せざる所である。然しながら常に、

美味をのみ欲するのは惡い

質素單純なる食物を要求するのが人類の味覺の自然である。林間の鳥、樹梢の菓實、水中の魚、路邊の草花、硬き物、軟かき物、甘き物、辛き物、すべてを集めて食さするのは味覺の自然を賊するもので、斯る味覺の云ふ所は僞りが多い、信用が出來ぬ。『袖の下』を貰つた門衛の樣に、惡い奴でも大目に見て口の中へ導く。

柔順な犬の子でも撲ち打擲をすれば、根性がねじけて人の影さへ見れば吠へ付いたり、逃げ惑ふたりする樣になる、朝飯と云はず晩餐と云はず、芥子で御座い、醬で御座い、胡椒で御座い、唐辛しで御座いと味覺を刺衝して居つては遂に味覺もコヂレて仕舞ひ、食物の眞味を感じなくなり、本來食物に具備してゐる風味か一切分からなくなつて仕舞ふ。

爪を切つたり石を割つたりなどしては如何に鋭利な

「ナイフ」でも切れ味が惡くなる、煙草や、麥酒や、葡萄酒や、茶や、珈琲などの様な食物でも無い興奮劑で日夜刺戟されて居つては、味覺も次第に鈍るのが當然である。全體我々の考へでは、

日本人は餘り茶を飲み過ぎる

と思ふ、朝起きては飲む、食事の後では飲む、食間には飲む、仕事に厭きては飲む、客が來れば飲む、家族相會しては飲む。茶の様な興奮劑を斯うも飲みつゞけられて全身に影響を蒙らぬ筈は無い。我國民の性急で、忍耐心に乏しく一般に、

短氣であるのも茶を飲み過ぎる爲め

かも知れぬ。味覺は胃にも無い、腸にも無い、食道にも無い、只獨り舌にのみあるものとすれば咀まないで嚥下むのも馬鹿、強いて味覺を鈍らせるのも賢い業ではない。故に吾々は、

適當な教育を舌に施す必要

がある。甘い物を嘗めたがる癖、硬い物を食いたがる習慣などは之を矯めさせるやうにする。『初めは人が酒を飲み、中頃は酒が酒を飲み、終には酒が人を飲む』と云ふ諺があるが、吾々も食物を食はなければならぬ。

食物から食はれてはならぬ

身體の健全は身體各部の調和である、此調和は精神の統御其宜しきを得るによつて保たれる。舌が精神の命令に反いて食物の奴隷となれば、玆に一家の破滅がきざす。舌で食ふな、精神で食へ、食物は身體の消費を補ふ重要物であるを心得、胃に入つて無益な物は食ふな、疎食では此消費を補ふに足らぬ。故に適宜に調理した適當物を常食としろ。サリとて徒らに榮養に渇し、濫りに滋養をのみ要求するのも宜しくない。先づ身體を強壯にすれば少しく食べた滋養品も悉く身となり皮となる。消化力が弱くては如何に多量の滋養分も大部分は糞便中へ排泄される。

家庭衛生

看護の事（承前）

醫學士　河野衛君述

病人が眠り込むだならば、ジット其儘にして置くのであります、睡るときは、苦みを忘れて了ひますから、決して醒ましてはなりませぬ、それで病人の睡つて居る時は、他の人は可成他室に移つて居るのが宜しい、併し病人を唯一人病室に殘して置くのは惡い、必らず一人は附いて居なくてはなりませぬ。

睡つて居るものに、藥抔を與へるのもいけませぬ、少しの睡眠は、實に良藥よりも貴ぶものであります、無論此場合にも、例外はあるが、その時分には醫師から特別の注意があります。

それから室内の空氣は出來得る限り淸潔にする事に注意しなければなりませぬ、室内には、惡臭の入らぬやうに注意し、窓を明けて空氣を入れ換へる時には、風が直接に病人に當らぬやうに布片を以て、之れを防ぐ事をするのです、或は傘で病人を掩ふて、風の當らぬやうにしなければなりませぬ。

藥を多く飮めば、早く利くやうに考へて、一時に多量の藥を飮むやうな事もあります、殊に痛みを止める藥であるとか、或は催眠藥であるとかいふものであると往々餘計に飮みたがるものであります、是れは甚だ危險でありますから、病が勝手に飮まないやうに注意し、飮ますべき時刻に、注意して與へなくてはなりませぬ、藥を與へる時には、明るい所でヨク見て間違の無いやうに氣を附けなければなりませぬ。

藥を入れて飮ました匙は、丁寧に拭ひ洗ひ、淸潔な水を盛つたコップの中に入れて置くのであります、病室では、光りを附けたり、消したり抔してはなりませぬ、何となれば、斯ういふ不意の音に對して病

人は甚だ鋭敏であるからであります、又光りを消すときは、室内空氣を不潔にします、又病室の中へは餘りキラキラした光りの入らないやうにし、電燈の光り杯餘り強いときには、布片で之れを掩ふのが宜しうあります。

病室は、光線の射入が良くて、乾いて、その上間が廣くて、換氣が充分に行はれ、靜かな室であるのが一番宜しいのであります、病室は、清潔でなくてはなりませぬ、それから、病室は、出來る事なら、東南にあつて、朝と日中の光線の入る所が宜しい、又病人の爲めに、二つ室を備へる事が出來れば、甚だ結構であります、其一つは、日光の當りの良いものを、日中の用に供し、冷い方の室をば、夜間の用にするのであります。

光線の射入しない室や、或は、壁の潤つて居る室は病室に充てゝはなりませぬ、又病室の餘りに、狭いのもいけませぬ、充分に廣いのが良うあります。

病人の看護上必用でない品物は、一切室内に置いてはなりませぬ、それから、病室には、室内寒暖計、便器、體温計、食匙、杯を具へ付けて置くのであります。

冬期は、室内温度を攝氏十七度（列氏なら十四度）位にしもし、病人が、臥牀安靜を要せぬ時は、攝氏二十一度（列氏なら十七度）位にするのであります病室内の濕度には、常に注意して居なくてはなりませぬ。

室内寒暖計は、病人の近傍に置き、夏の暑い時分には、夜は窓を開いて、晝間は、之れを閉ぢ、光線の直射を避け、戸を開けて、空氣の流通を計らなければなりませぬ。

病室に新鮮な空氣を送る事は、極めて、大切であります、それで冬は、毎日朝と晩とに、十分から十五分間位窓と戸とを開くのであります、牀に寢て居る病者は、是れが爲めに、風を引くやうな事はありませぬから、戸を開けた爲めに入る風は、左程な害にはなりませぬ、或は、戸、窓を開けて、換氣を計つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て居る間は、特別に、布團を掛けて、暖かくして置くのも宜しうあります、或は、隣の室に、一時移して置いても良いのであります、或は西洋流の室ならば、窓の上方を開いて置けば、風が直接に、病者の身體に觸れるやうな事はありませぬ、夏の間は、出來る事なら、晝も夜も、窓を開けて置くのが宜しい新鮮なる空氣は、健康なる者に向つても、又病人に取つては勿論の事、必用であります、病室の中へは外から、惡臭のある瓦斯杯の這入らぬやうにしなければなりませぬ、又病室に起つた惡臭は速に、之れを去る事を勉め、是れには、窓と戸とを開ける事を忘れてはなりませぬ、それ故に、臺所や便所杯に近い室は、病室としては宜しくありませぬ、病室で食事を調理したり、洗濯物を乾かす杯するのは、堅く禁ずる所であります。

日光の入るのは、必用な事でありますけれども、眼病や或種の腦病のあるものには、宜しくありませぬから、此時は、窓掛けをして、光りを遮る必用があります、又壁の色も大切なもので、キラキラ光る白い色或は、暗色は良くありませぬ、一番良いのは、鮮灰色であります、或は、少し青味を帯びたのが宜しうあります、洋燈は、病室用としては、宜しくありませぬ、瓦斯燈は、不注意をすると、瓦斯が洩れ出るといふ危險があります、それで一番良いのは電氣燈であります、電燈は、不必用な熱を發生する事も無く、室内空氣を汚す恐れもありませぬ、併し日本の屋内で、何所でも、電燈を用ふるといふ事は事實出來難い事であります。

病室では、可成音をさせぬやうにし、安靜にしなければなりませぬ、病人に依つては、時計の音にも堪へられぬ者であります。

病室を掃除する時には、ハタキや箒を用ひてはなりませぬ、布片を潤らせて、靜かに、室内を拭ふのが一番宜しい、戸、障子も、亦同じく、潤つた布片で丁寧に拭ひ清めるのが良うあります、之れは、獨り病室に限らず、平素室内を掃除する時分には、此方

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

法が、一番良いと私は思つて居ります、塵も空中に飛散させ、其塵が亦再び疊の上に落ちて來て、塵の位置を換へるに過ぎぬやうなやり方は、感服が出來ませぬ、病人の寢て居る時に、掃除杯をして、病人の眠りを妨げてはなりませぬ、病人の食事が濟んだら、一時他の室に移して置いて其間に、掃除をするのが宜しうあります。

看護の話しは、範圍が中々廣うありますから、素人で、分り易い實行の出來る事丈けに、止めて置きたいのであります、それで私は、玆に、

小兒の看護

丈けの事柄で、而かも、日常最も必要である事項を御話し申しましよう、それで、小兒といふものは啻に病氣の時に看護が入るばかりでは無く、平素でも、看護が必要であります、そうして、母親たるものは、此小兒の看護といふ事の大體位は、心得て居なくてはなりませぬ、小兒を正しく看護して、養育し、天然の發育を遂げさする事は、母親たるもの丶最も美なる義務の一つであります、小兒が生長して六歲から、十四歲位迄の間は、主に精神敎育を施すべきものでありまして、初生兒(一歲迄)と幼稚なる小兒(二歲から六歲迄)との看護とは、區別がありまして、初生兒と幼兒との看護は、主に、身體の方の看護であります、それで先づ

初生兒の看護

の事から申しますと、初生兒に、最も必要なるものは、溫と睡眠と、身體を淸潔にする事と、それから正しき榮養を計るのであります。

初生兒に衣服を著せたり、襁褓を卷いてやる時分には、必らず豫め之れを溫めて著せなければなりませぬ、それから、襁褓、腹卷杯を卷く時に、止針を用ひてはなりませぬ、それから、母と一緒に寢る習慣は、宜しくありませぬ、乳房で窒息するのは、屢〻耳にする所であります、室內は、平均に溫められて列氏十五度とし、ユタンポと室內寒暖計とは、毎に具へ付けて置くのが宜しうあります、室內の換氣—

戸、窓を開けて、新鮮な空氣を入れ、室内で物を煮たり、燒いたり杯せぬやう注意するのが肝要であります、生れてから、三週も經つと、温かい日には、室外に出して差支はありませぬ。

健康な初生兒は、生れて數月の間は、殆んど絶へず眠るものであります、併し、二三時間目には、眼を醒まして、泣くです、この時には、腹がすいて乳がほしくなつたのか、或は、身體に何所かに、不潔な所があつて、不快であるのか、或は、衣服の著せ方襁褓の巻き方の悪い所杯があるのであります、小兒は、不快の時にも泣き、腹のすいた時にも泣き、痛みのある時には無論泣きます、それ故に、泣けば、直に乳が飲みたいものと考へずに、先づ、身體諸部に異状がありはせぬかといふ事を篤と吟味しなければなりませぬ、乳で泣きを止めやうといふのは、大層間違つた考へであります、眠つて居る間は、靜かにして、晝でも、夜でも、強い光りが顔に當らぬやう、蠅や蚊の止まらぬやうに氣を附けて居なくてはなりませぬ、身體を清潔にしてやつて、充分に乳を飲んでも、直に、又泣く時は、何か病氣でも起つたのではあるまいかといふ事を考へ、直に醫師の診を受けなければならぬ、泣きを止める爲めに、小兒の身體を無暗に動搖させたり杯するのは、害がありますから、抱いて、搖する事は、宜しくありませぬ。

身體を清潔にするには、毎日湯に入れるのであります、あまり熱いのは、害があります、通常攝氏三十五度位とするのです、身體が不潔であると、皮膚に發疹を來し易く、腺が腫れたり杯するものであります、初生兒に湯を使はす時は、五分間を超えてはいけませぬ、此時頭をヨク支へて、湯が口や耳杯の中に入らぬやうに注意しなければなりませぬ、湯から出して、後には、乾いた手拭で丁嚀に拭ひ、潤り氣の無いやうにするのであります、臍帶には、餘程注意して、清潔にせぬと、種々な病を起して來ます、それから大切なのは、口中を清潔にする事であります、此れは、乳を與へる前と、飲んで了つた後とに

必らず、淸潔な水に浸した布片で、叮嚀に拭ひ淸めるのであります、口中が不潔であると、屢々鵞口瘡といふ病を起して來ます、鵞口瘡は、決して輕く見てはなりませぬ、それから、小兒の頭にカサブタが出來た場合には、油を附けて、注意して拭ひ落し、后石鹼水でヨク洗ふてやらなければなりませぬ。小兒の看護の中で、最も困難なのは、其榮養法であります、此事は、後に、改めて申し述べる事にしましよう。

健康な小兒は、一歲を過ぎると、口を利く事を覺え步む事も出來ます、その時には、色々な言語を話して聞かせ、發言するやうに、してやるのであります步行は、急いで稽古させてはなりませぬ、錄に步めないやうなものに、手を引いてやつて、步かせるのは良くありませぬ、誕生後三ケ月から、六ケ月位迄は、獨りで步むやうになるのを待つて居て差支ありませぬ、もし誕生六ケ月も經つても、まだ步行の出來ぬやうな事があれば、其時始めて、醫師に相談しなければなりませぬ、それから、事情が許すなら、可成戶外に連れ出して、新鮮な空氣に觸れる事を、勉めなければならぬ、無暗に大事を取り過ぎて、室内にばかり置くのは良くない事であります、又あまり早くから、小兒に智惠を附けようとするのは、却て害があります、小兒が生長して四歲位になる迄は、毎日一二時間は、眠らせて、十歲位迄は、可成早く夜寢かし、夜分は、十時間は、充分に睡眠させるのが宜しうあります、精神の敎育といふ事は、中々六ケ敷い事でありまして、固より、玆で申し上げる事は出來ませぬけれ共、あまりに嚴に失するのは惡い事でありまして、一言で言ふと、小兒らしい小兒に育て上げるのが一番肝要な事であります、小兒の前で、其子の事を批評したり、或は、一家の事や世間の事柄抔は、話しをせぬ方が宜しい、或は、此子は、何々が大層好きであるとか、或は、嫌いであるとかいふやうな事も、可成控へて置いた方が宜しい。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

六歳位にもなると、小兒の食餌は、段々と大人のに近づいて來ますけれ共、牛乳は、矢張り主なる食餌とする方が宜しうあります、それから、甘い物は、大層小兒の好くものであるけれ共、此れも、あまり與へ過ぎると、却て必要な主食物を好まなくなりますから、餘程控へ目にして置かぬと、困る事が出來て來ます、母乳で育てた子は、毎に申す如くに、發育が極めて宜しうあります、然るに、誕生前後になると、榮養が衰へて、却て痩せ、隨て色々な病に罹る子供をヨク私共は見受けて居ります、是れは、ドーモ其榮養法を誤まつて居る爲めではあるまいかと私は思つて居ります、母乳は、小兒を育てるに最良の品でありますから、必らず、此母乳に依らなければならぬ、所が、誕生頃にもなると、子供は、大分生長して居ります所から、母乳では最早其生長に必要な榮養を取る事がむづかしくなつて來ます、それで此時前後からは、一體離乳と謂つて、斷然母乳を止めて、他の榮養品に移て行かなければならぬのであります、然るに、中々此離乳は、實際行ひ難い事情の多い所から、或は、永く母乳を與へた方が良いといふやうな考へから、依然として、母乳を與へて居る所が、小供の方では、色々な物を欲しがる、そこで、食卓に就いた時分に、親の食つて居る色々な食物を與へる、つまり子供の食餌といふて定めてある品が無い、母乳を飲むだり、大人の食ふ物を少し宛食べたり抔して居る所から、ドーモ身體の榮養法が適當に行はれぬ、それが爲めに、身體の發育が以前幼稚であつた時の割合に行かぬ、却て痩せるやうになるのではあるまいかと、私は考へて居ります、實際此離乳時期から、後の榮養をウマク行つて行くといふ事は、實に中々困難な事なのであります、何れ離乳の事に就いては、後日更に詳しく御話したい考へでありますが要するに、誕生前後からの榮養といふ事には、深く注意しないといけませぬ、烈しい下痢嘔吐を發する性質の惡い消化不良症に罹るのも此誕生前後の者に多いやうに私は經驗をして居りま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

す、ドーしても、此年齢になつて來ると、榮養の事は醫師に相談して、やつて行くのが一番大切な事であろうと思ひます、それから、香料や酒類のやうなものは、小兒には、有害であります、それから、毎日湯に入れて、身體の清潔を計るのは、肝要な事であります。

小兒には、注意して居つても、種々な病を發するものでありまして、大人とは、餘程趣の異つた所があります、それで、病を早く見出して、早く手當をする爲には、病氣の事柄をも、少しは、知つて居なくてはなりませぬから、これから、少々

初生兒の病

の事から、御話し申しましよう、それで、第一には皮膚のたゞれ、是れは、身體が四時潤つて居る時に出來るものであります、例へば、永く湯に入れないで、不潔にしてある時、或は、下痢した場合、或は襁褓に小使の附いたのを其儘に放置して置くと生じて來ます、そこで、常に湯に入れて、出來る限り清潔にし、常に潤らないやうに氣を附けなければなりませぬ、殊に、肛門附近、股の間抔に「たゞれ」が出來易うありますから、襁褓を取り換へる度毎に、注意して、見なければなりませぬ、此れを豫防するには、常に湯に入れて清潔にし、乾いた布片で、注意して拭ひ、若したゞれが出來たなら、澱粉の粉を撒布して置くか、或は、醫師の處方で出來た藥を附けるのであります、小兒に、たゞれの出來ないやうに注意するのは、看護者たる母の義務であります、下痢症にでも罹つた場合には、容易に、肛門附近がたゞれて來ますから、下痢のあつた度毎に、清潔に洗ひ、乾かし、其跡に撒布藥を附けて置かなくてはなりませぬ。

いゝ、鵞口瘡は小兒の口の中が清潔でない時に起るものであります、是れは、白い斑點が口中に出來るのでありまして、始めの間は、頬の内面の所の口粘膜、口唇の内部の邊に、小さなポツ〳〵とした白い斑點が出來、丁度飲だ乳の固まりが附いて居るやうに見え

ます、又始めの間は、之れを布片で拭へば、直に取れて了ひますが、其跡に、又出來て來ます、それが段々に廣まりますと、口中一面に白くなり、口蓋、舌、咽頭の方に廣まり、遂には食道の方へも進んで參ります、そうなつて來ると哺乳が困難となり、色色な障碍を起して來ます、又此鵞口瘡は、嘔吐下痢―消化不良症に罹つた場合にヨク出來るものであります、そこで、親たるものは、常に注意して、乳兒の口の中を見て、若し白いものが附いて居た時には直に其手當をしなければなりませぬ、そして、鵞口瘡の出來ないやうにするには、哺乳の前後に、清潔な布片に、清潔な水をば、湯を附けて、丁寧に口を拭つてやらなければなりませぬ、そうして、もしも白い斑點が出來て居たならば、重曹を五 % の割に水に溶き、此れで以て、拭ひ去るのであります、それでも清潔にならぬ場合には、必らず、醫者の治療を受けなければなりませぬ、消化不良症の末期に鵞口瘡を發した場合には、口中を拭ふのが誠に困難であります、何故かなれば、嘔吐があるから、其上口中を拭ふと、其刺戟で、容易に、嘔吐を起すからであります、故に消化不良症に罹つて居る時は、殊に注意をするのであります、小兒は、何でも、物を手にすると、直に嘗めて見たがるものでありますから色々な物を嘗めさせぬやうに注意しなければなりませぬ、それから、哺乳の前後には、母の乳房を注意して清潔に拭ふのが肝要であります、又牛乳を飲む場合ならば、護謨の乳首を常に清潔にしなければならぬ、要するに、小兒殊に哺乳兒の口の中を常に細心な注意を拂つて、清潔にするやうに心掛けなければなりませぬ、乳渣が付いたのだと思つて、放擲して居る間に、漸々と蔓延して來ますから、恐るべきものであります。

、、、、初生兒眼炎は危險な症であつて、一方の眼に發すると、容易に他の方の眼に傳染するものであります、それで、若し、初生兒の眼が開かず、眼から、膿が出たり、或は、眼瞼が腫れて居たり、赤くなつて居

た時分には、速に、醫者を呼ばなければなりませぬ、此時分には、消毒した清潔な布片を清潔な水に浸したものを以て、注意して眼の上を掩ひ、此布片を度度取り換へるのであります、そうして、もう一方の眼が健全で、何ともない時には、此健全な方の眼に傳染しないやうに注意し、清潔な布片で、掩ふて置いて、小供を横に向けて寢かし、惡い方の眼を下にして置くのが一番安全であります、此時に、子を看護する人は、常に、注意して、手を清潔にし、不潔になつた布片は、燒き棄てなければなりませぬ、子供の眼を扱ふた手を以て、其儘自分の眼をイヂラないやうに、氣を付けなければ、傳染の危險があります、此初生兒の眼炎は、屢〻盲目に終る事がありますから、決して放置してはなりませぬ、クレーデといふ人は、初生兒に、必らず、硝酸銀水を點眼する事を言ひ始めた人でありますが、此方法が行はれてから、初生兒の眼炎が餘程減少して來たといふ事であります。

嘔吐、幼稚な小兒の嘔吐は、通常乳を多く飲み過ぎた爲めに起るものであります、或は、惡い乳を飲むでも、嘔吐を起します、胃腸に病があれば、無論嘔吐を發して來ます、小兒の嘔吐と謂つて、世間には之を輕く見て居る人も尠くないやうでありますが、之れは、間違つて居ります、又小兒はヨク吐くものであるとか申して、イクラ嘔吐があつても、平氣で居る人があります、此嘔吐の外に、溢乳と謂つて、飲んだ乳をガブツと嘔き出すのがあります、是れも乳を飲み過ぎた爲めに起るのであります、一體に小兒の胃袋は、大人のとは、其形の具合が少し違つて居て、眞直な管のやうな有様をして居りますから、乳を飲んだ後に、少し身體を動搖しても、容易に嘔吐を起します、それ故に、乳を飲ました後は、身體を靜かにして置くやうに注意し、乳を飲ませ過ぎぬやうに時間を嚴重に守る事をしなければなりませぬ嘔吐のある時は、乳の量を減じ、哺乳の時間を正しく守るのが一番大切な事柄であります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

い、便秘、是れも小兒を苦しめるものでありますから、放置してはいけませぬ、原因は、色々ありますが乳の飲ませ方の多う過ぎた時にも、便秘を起します、小兒の便秘に向つて、妄に、下劑抔を飲ませるのは間違つて居ります、此時には、浣腸をするとか、坐藥を用ふるとか、夫々醫師の指圖を受けなければなりませぬ。

い、下痢は小兒に極めて多い恐ろしい病でありまして、而かも、世人があまり重く見ない疾病でありますから、玆に、少しく詳しく御話し申しましよう、そこで下痢は、小兒には、極めて多い病でありまして、パイフエルといふ人の書いた書物に據りますと、歐羅巴で年々下痢の爲めに死亡する小兒の數は、三千萬から四千萬といふ驚くべき大數であるといふ事であります、是れを以て見ても、如何に恐ろしい病であるかといふ事は明白でありましよう、それから、下痢の多い時季は、夏の初めから、秋に掛けて、暑い季節に最も多うあります、年齡は、何れの年齡の小兒も侵されますが、就中誕生前後の者に性質の惡いものが多いやうに思はれます、本年夏には、大層此惡性の下痢が多うありましたが、ドーモ私の少い經驗では、此誕生前後の小兒に多いやうに思はれたのであります、それから、此下痢に罹るのは、毎々申す如く、ドーモ牛乳榮養の小兒に多いのであります、西洋で、下痢の爲めに死ぬものゝ多いのは、一つは、牛乳榮養の小供の多いのにも原因するのでありましよう、初生兒では、便通は、一日に二三回はあるもので、便は、黃色をして、膏藥のやうな堅さで、少しも色の變つた雜り物抔は無いものであります、然るに、下痢症に罹ると、便通の回數が多うなりまして、一日に五六回、或は夫以上の回數となり惡臭を帶び、水のやうになり、或ば、粘液と謂つて鼻汁のやうなスル〱したものを雜へ、或は、泡沫を雜へたり、顆粒と謂つて、白い米粒のやうなものが加はつて居たり、色は黃色でなくて、綠色を帶びて居ります、その上熱が出たり、嘔吐が加はつて來

ます、斯ういふ樣な場合には、胃腸に重い病氣があるものと心得で、速に手當を盡さなくてはなりませぬ、不幸な場合には、數日の間に、死んで了ひます、又便が平素と違つて、水のやうに出たり、或は、惡臭があつたり、或は、便通の回數は少くても、上に述べた樣な便の性質を具へて居る時分には、必ず腸に病があるのであります、小兒は、ヨク吐くものであるとか、又ヨク下痢するものであるとかと謂つて平氣で居る人がありますが、此れは間違つて居ります。

それで小兒が下痢症に罹つた場合には、醫者の助けを賴む事は知れ切つた話しであります、此時は、先づ、腹部を暖めるのが大切であります、それには、色々な方法がありまして、或は、懷爐或は、「コンニャク」抔で暖める方法は、普通一般に行はれて居りますが、一番良い方法は、脫脂綿を熱い湯の中に入れて、輕く搾り、餘り熱過ぎぬやうにしたのを腹の上へ一面に掛け、その上に油紙を卷き、又此上を「フランチル」で充分に包むのであります、此時件の油紙は、充分大きなものを用ひ、脫脂綿の大さよりも遙に大きなものでなくてはなりませぬ、此油紙と「フランチル」とは、脊から廻して、腹の上で卷くやうにするのであります、そうして、暫くすると濕が取れますから、二三時間每に件の脫脂綿を取り出して、又熱い湯に浸して腹の上へ掛けてやるのです、それから、小兒の身體は、靜かにして置くのが肝要でありますから、ソット臥牀の上に寢かして置き、決して抱いたり、背負つてはなりませぬ、そうすると、身體が動搖する事になりますから、靜かに、寢かして置くのであります、尤も始めの間は、起きたがつて八ケ間敷うありますけれ共、辛抱して置く中には、ヨク慣れて、屹度靜かになつて來ます、ねて居らぬといふのは、まだ仕付けが足らぬのであります、殊に吐く小兒抔では身體を動搖するのは、大の禁物であります、健康な小兒でも、乳を呑ませた後に、身體を動かせると、吐く事があります、それ

故に、別して、病氣の場合には、身體を靜かにして置くといふ事が一番大切であります、それから、困難なのは、食餌であります、下痢嘔吐のある時分には、出來得る限り食餌を減らし、哺乳と哺乳との間の時間を長くするといふのが原則であります、例へば、母乳を三時間毎に飲ませて居たとすれば、今度は、四時間毎に飲ませる、そうして、一回十五分乃至十分間位飲ましたものなら、之れも減じて、十分から五分間位とする、或は牛乳を與へてあつたものならば、ズット薄めて、一回の分量を遙に少くして與へるといふ具合に、一回の飲まする量を減じ、哺乳と哺乳との間の時間を長くするのであります、是れは、病症に應じて、醫師から、命じた通りと嚴守しなくてはなりませぬ、是れが守れぬと中々病は治りませぬ、ドーモ泣く、腹が減る、可愛想だといふので、ドン／＼乳を飲ませたが爲めに、取り返しの付かぬ失敗を招くのは、誠に、屢々ある事であります、是れ丈けは、呉々も皆樣の御注意を願ひたいのであります、丁度修繕中の道路を人が通行するやうなもので、折角ヨク出來上つたかと思ふと、崩れて來て、何時迄も、完全に修理せられる筈はありませぬ、それ故に、斷然通行を禁じて、道路の修理を行ふ譯であります、通行を許しては、堪りませぬ、今下痢症の時分に、食物を減らし、又は、一定時間全く何も與へぬといふのも、此理であります、其の外下痢、嘔吐の病に罹つた時には、口中が不潔になり易うありますから、哺乳の前後に、口中を清潔に拭うのが大切であります、下痢症の時分には、口中に鵞口瘡を發生して來ます、こうなると、病の經過は一層惡くなりますから、每に、此鵞口瘡に注意しなければなりませぬ、それから、牛乳の取扱ひは、一層嚴重にし、消毒を叮嚀に行ひ、夏期は、一旦煮沸したものをば、氷の中に冷して置くのが一番宜しうあります、平素なら、體溫に暖めた乳を與へるのでありますが、嘔吐のある場合には、冷い乳を與へて大層結果の宜しい事があります、又下痢、嘔吐のあ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る時分には、牛乳の中へ砂糖を加へぬ方を小兒が好む事があります、或は、砂糖の量を平素のよりも尠くするが、或は、ソツキスレツト氏發明の滋養糖を加へても宜しい、此滋養糖を加へた時には、砂糖は入れないのであります、滋養糖は、消化吸收が良くて、小兒の爲めに、大層效果のある品であります、此品は、病の時分のみでなく、平素健康な小兒を牛乳で育てる際に、用ひられるのであります、玆で序に御話して置きますが、牛乳で小兒を養育するのは甚だむづかしい仕事である事は、毎々申す事であります、牛乳は、其薄め方と、分量とが、八ケ間敷いのでありますから、必らず、醫師の監督の下に行ふべき事柄であります、子供が生長するに隨うて、薄め方も濃くし、分量も增すのでありますが、此れを無暗勝手にやると、下痢症を起す事が尠くありませぬ、或は便の性質が惡しくなつたり、哺乳が減じたり抔するものであります、之れ故に、乳の薄め方や哺乳量抔は、決して、自分了見で勝手に變更すべきものではありませぬ、非常に大事を取つて、掛らぬと、思はぬ失敗を招くやうな事に立ち至ります、重ねて、玆で申し上げて置きます、それから、下痢症に罹つた小兒には、身體が瘦せて來て、其上に、腫物がヨク出來ます、腫物は、始めは、赤くて、堅くなつて隆起した小さなものであつても、次第〱に大きくなつて、膿を持つやうになり、往々熱が出て非常に不快なものであります、それは、腰の附近、腹部、頭部抔にヨク出來ます、それ故に、常に注意して、湯に浸した手拭で、身體をソツト拭うてやらなければなりませぬ、又股の邊がヨク爛れますから此れにも注意し、常に淸潔にする事を忘れてはなりませぬ。

それから、下痢のある時分には、下痢の回數一日に何回あつたか、又便の性質はドーか、と知るのは大に必要な事でありますから、必らず便を捨てずに取つて置いて、之れを醫師に見せるのであります、又小便の出方が如何であるか、殘りはせぬか、或は、

一旦殘つて居たけれども、又增して來たとか、いふやうな事にも注意して居なくてはなりませぬ、それから、便の臭氣にも注意し、平素健康であつた時分のに比べて、臭氣に違ひはないか、非常に惡い臭氣であるかドーかといふ事も氣に留めて置かなければなりませぬ、それから、一日に三回朝と正午と夕方とに、體溫を計つて之れを記載して置くのであります、マア以上で、下痢嘔吐の時に極く卑近な、誰でも出來る注意の點を述べましたから、是れから呼吸器病の事を述べませう。

（以下次號）



質疑

問●　前略御免下されべく候私し事數年前より肺結核病に侵され居り候へば是迄も秋氣に向ひ候節は時時咳嗽が出て困り居り候間其の手當として「テレピン」油と水を鐵瓶に入れて室內を溫め候事は最も良き趣きに聞き及び居り候ひしが右は如何なる效能あるものにや又清水は如何程位に對して「テレピン」油何程位の分量にて宜しく候哉甚だ御手數ながら何卒其の分量及び又他に良法等御座候はば御敎示下され候樣偏に願ひ上げ候

東京　森　光子

答●　肺結核の療法に就ては前回の誌上に其の大要をお答へして置きましたから御反讀あらばお分りになりませうが、今回お尋ねのも亦理想的の療法と思ひます元來「テレピン」蒸氣を蒸發せしむるのは藥品其のものゝ效よりも專ら其の蒸氣に依り室內の空氣を溫め且つ濕潤せしむるので卽ち空氣に一定の密度を維持せしむると云ふのが目的でありまして傍ら藥品の爲め殺菌の效力あると同時に腐敗を防ぐのです、今や金風暑さを洗ひ玉露秋に橫はるの時節になりまして氣溫の低降は日一日と增加し空氣は漸次乾燥するが爲め居常呼吸器病のある

人は氣管の粘膜に一種の刺戟となりて忌む可き咳嗽を頻發し一層苦悶する故へ常に空氣が一定の温度と濕潤とを有する樣に務めなければなりません是れには蒸氣温暖法が最も適當であります而して其の中に入るべき藥品としては「ケレヲソート」、「ミルトール」、「テレビン」油等種々あるが就中「テレビン」油は輕便で經濟で殊に危險少なく素人用としては最も良品です用法は清水一合中に十滴乃至二十滴位にてよろしく「ストーブ」の装置があれば平たき皿に入れて其上に置き火鉢なる時は火上に懸け置きて盛んに發蒸せしむれば宜しいのであります。



○皇后陛下慈惠會へ行啓

皇后陛下には豫て仰出されし如く柳原典侍の御陪乘香川皇后宮大夫以下の供奉にて去る十二日午後二時東京慈惠會第一回總會に行啓遊ばされたり御先著の總裁有栖川宮威仁親王殿下同妃殿下、伏見若宮、東伏見、閑院、梨本、久邇の各宮妃殿下を始め會長役員以下は門内に整列奉迎し陛下には會長德川家達公の御先導にて君が代の奏樂裡に便殿に入御役員以下に拜謁を賜ひて後會場に臨ませたまふ陛下當日の御装は白毛の飾ある御帽子に薄鴇色綾織の御洋装殊に尊く拜せらる斯くて會長其他より奉呈の報告書を受けさせられたる上玉音朗らかに左の令旨を下し賜ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

本日東京慈惠會の總會に臨み各員が見ろた喜ぶ各員の盡力により追々本會の發展せるは滿足の至りに存す

總裁有栖川宮殿下は奉答文を奉り院長は御前に於て看護婦卒業生二十名に卒業證書を授與し式畢つて陛下は便殿に入御、女官源生寺糸子外一名を入院患者慰問の爲め各病室に遣はされ一々病症等御下問あり更に患者九十九名に對しお菓子料の下賜ありしにぞ患者等は皆病苦を忘れて限りなき御惠に感涙止めあへず殊に腰椎骨傷にて入院せる渡邊辰夫(五つ)及び生後僅に七日目に母と共に入院せる藤井靜子(十二)の兩人に思召を以て玩具犬張子人形等の下賜ありしかば至らぬ隈なき大御心の程云ふも畏し斯くて陛下には午後三時同會御出門御道すがら芝離宮に御立寄りありて後玉顏麗はしく還啓遊せられしが當日は同會役員其他へも茶菓の御下賜ありしと漏れ承る。

○工場衞生と當局

近時產業の發達と共に工場の設立夥しく之が取締の必要特に衞生上の監督に就ては大に考慮を要するものあり工場法の制定も甚だ緊要の事にて同法案は農商務省に於て起草しつゝあるが未だ脫稿に至らざる由なるが内務省に於ては工場衞生の方面より法案の材料を蒐集せんと勉め目下醫科大學の横手博士に囑託して各所に於て工場の實狀現況を視察し衞生上の設備に就き研究を重ねつゝあれば他日工場法案が議會の審議に上る曉きには有力なる參考たるべしと窪田衞生局長は語られしと。

○產婆試驗規程改正方針

内務省衞生局にては產婆試驗規程の改正を行はんが爲め爾來之が調査に從事したるが此程大體の調査を結了し略々其の改正の方針を一定するに至れりと其の改正方針の大要左の如し。

一　從來認許し來りし取扱婆樣の者の養成は之を廢止し出來得る丈け各方面の素養ある者を採用する事

二　產婆の養成は普通教育と連絡を計る事

三　產婆試驗問題は全國總て連絡を通し似寄りたる試驗問題の提出は之を避くる事

○衞生事務講習所證書授與式

大日本私立衞生會第十三回衞生事務講習所講習證

書授與式は去月三十日午後一時坂本町醫會本部講堂に於て擧行同會理事長金杉醫學博士挨拶同會副會頭北里醫學博士講習生一同に證書授與を了し來賓徳田衛生局長代野田防疫課長教訓的演説續いて講師總代山岡學士、同會評議員總代大澤醫學博士一場の演説あり講習生總代の答辭を以て式を了り別室に於て茶菓の饗あり庭前にて一同寫眞撮影午後四時散會せり同講習所は各府縣の衛生事務に從事する警部巡査市町村吏員等にて地方廳の紹介に依り入場するものにして期間三ヶ月なり今回修業したるもの五十九名にして第一回より第十三回までの修業生通じて六百九十六名なりと云ふ。

○百歳以上長壽者研究

大阪胃腸病院長湯川玄洋氏が此程百歳以上の長壽者百六十二人を選び原籍役場を介して種々調査した最新の研究によると醫學界のみならず一般社會の注意を促すに足るもの頗る多し今其數項を紹介す(大阪毎日)

長壽者の男女と年齢別　鶴壽亀齢も留ならぬ此日出たい高齢者が萬事につけて心せわしい今の世の中にチョッと調べても百幾十人あるとして見れば未だ未だ浮世の何處やらには悠然とした餘地のあることが考へられる、而も其中の五十四人が男で、百八人が女であるといふことを種々な方面から調べて見ると矢張り大きな問題に頭腦を痛める者よりも責任の薄い苦勞の少ない者の方が長命することになつて居るので、兎に角長命の第一要義は氣の持やうに存するものだと言つてよからう、更に百六十二人を年齢別にすると百一歳が四十六人、百二歳が十九人、百三歳が三十八人、百四歳が三十七人、百五歳が十九人百六歳からズッと減じて三人、百七歳も三人、百八歳、百九歳、百十歳が各一人、百十一歳が二人といふやうになつて居て年の殖えるほど少くなるのは當然のことだ。

長壽者の父母　長壽者の子に長壽者の出來るといふのは誰でも考へつくところだが實際兩親の死亡年

齡の平均數を調べて見ると百歳以上の父が二人もある、九十歳以上は八人、八十歳以上は二十九人、七十歳、六十歳以上は何れも二三十人、五十歳以下は僅に七人、中には隨分夭折した親もあるは有るが片親が必ず長命して居る、だから若し兩親とも夭折したといふやうな人は大に注意する必要がある。

●●●●長壽者と兄妹　長命する程の子を生む親は子の數も澤山生むに違ひなからうと思つて居たが九人の十人のといふ兄弟のあるものは三人しかなくて、八人から七人六人と兄妹の少くなるほど長壽者が多くなる、實に三人兄弟が二十六人、二人兄弟が十七人、一人兄弟が十八人、兄弟のないものが十五人といふ調べになり餘り同胞の多いのは總じて短命のやうになつて居る、と言つて一人子なるものが甘く長命するかは疑問である。

●●●●長壽者は子福者か　長壽者の兄妹關係と共に不思議の結果を示したものは其子の數で、子なしの者が十五人、一人の子持ちが十三人、二人が二十三人、三人が三十五人、それからはガラリと減じて六人以上の子持ちといへば極々少數づゝしかない、勿論百二歳の婦人で十二回も出產したのが二人もあるし、百二歳の老人で實子八人、孫三十六人、曾孫九十一人、玄孫二人合せて百三十八人の一家族をなして居るやうな人もあるから子福者必ずしも短命ならぬは勿論だが何故に長壽者の數と各人の子の數とが反比例するやうな統計になつたものか、大に研究の餘地があらう。

●●●●職業と居所　職業と言つて若い時と現在と變つて居るものもあらうし回答の記載に曖昧なものもあつて正確な數を得られないが一番多いのは農業の百六人で、農漁兼業が十人、漁業のみが五人其他は大抵一人づゝが數十種に渉つて居る、たゞ象嵌師のやうな非衛生的業務に幼時から從事して居るものゝ内に長壽者が一人あるのは奇とすべきもので、夭折の標本になつて居る電信技手でも百歳の長壽を保つに差支ない證左として慶すべきものである、此職業の關

係上勢ひ山間村落に住むものが多いのは當然で六十五人、海邊の村落が二十九人、小都會が十一人で大都會のものも二人はあるとして見れば大阪市内も案じるには當らぬものだ、然し山と海とを比較すると海濱の人よりも山の手の方が健康が優つて居る、是れは食物の關係上胃病の少いのに起因すると論じて居るものもあるが、菜食と肉食と胃病との關係は尚々研究せねばならぬもので菜食のものに胃病なしといふやうなことはソウ輕々に言はれる筈ではなからう。

結婚年齡と同棲年數

自然主義流行の今の世の中に下記のやうな調べを見せると十四位で夫婦ごとしても健康には構はぬものだなどと勝手な熱を吹くかも知れぬが此一人の長壽者は特別の體質によつたもので、矢張二十歳前後の結婚者の二十四分の一に相當して居ることを忘れてはならぬシカシ又餘りに結婚を後らしたものも幸福な壽命を得られぬことゝなつて居る所にも親々達は注意してよからう。

▲最多き結婚年齡二十歳(二十四人)二十五歳(十一人)十七歳(十人)十八歳(十人)十九歳(十人)二十一歳(八人)二十二歳(七人)▲最少き結婚年齡六十一歳(一人)五十一歳(一人)三十九歳(一人)三十六歳(一人)三十五歳(一人)二十八歳(一人)十四歳(一人)

尤も多少は社會の習慣によつたもので早婚遲婚が必ずしも長壽者の多少の因をなして居るものではなからうと思はれるが次の夫婦の同棲年數について見るとチョッと意外な智識が得られる、實際同胞の少いものや子の少いものが長壽をするといふ點から考へると同棲の短期なものが長命するやうに考へられるが矢張りヨイ程の同棲をしたものでないと長壽することが難たいのも面白い、今年數順で言つて見ると六年から十年までが(一人)十年から二十年までが(五人)二十年から三十年までが(十七人)三十年から四十年までが(十六人)四十年から五十年までが(二十三人)五十年から六十年までが(二十五人)六十年から七十年までが(二十六人)七十年から七十九年までが(七八)八十年が(三人)とある然し同棲夫婦間の衛生的交渉狀態は無論別の研究に屬し

て居る。

長壽者の疾病　百歳以上の長壽者が既往に慢性不知の難病に罹つて居さうな筈がない、多くは一時的の熱病などに罹つたものがあるばかりで無病息災の者が五十八人といふ多數に上つて居るのは、素晴しいものである、試みに萬病の原と言はれて居る感冒の度數を調べて見ると、たび〳〵冒されたものが十二人、稀に冒されたものが六人、一年一度位のものが二十七人、生れてから一度か二度しか罹らぬものが十二人、一度も罹つたこともないのが八十七人もあるとは驚くの外ない、蒼い顔をした短命さうな青年男女は盛に冷水摩擦でもやつて見るが上分別だ。

酒と煙草と茶　何れも『養生に害あり』と歌のやうに言ひだされて居る品物だが調べて見れば見るほど油斷のならぬことが分る。實に此長壽者百六十二人中で「酒」を飲まぬ者が七十七人、折には少量を用ゐるものが十二人、一合以下のものが二十三人、二合以下が十二人、三合となれば三人、四合で二人五合六合以上となれば一二人づゝになつて、一升内外のものは唯の一人あるばかりだ酒を飲み始めた年齡も中年以上初老以後のものが多くて、少年時代から初めたものは絶無である「煙草」は全く喫まないものが百五人、極少量のものが十一人、普通のものが二十七人、甚だ好きなといふやうなものは酒と同じく唯の一人しかない「茶」についても全く前兩者と同樣の率を示して居るので彼等の職業から推測しても濃い茶や毒強い上等茶の用ゐられぬこと當然で茶好きといふても比較的害の少い煮出し茶を呑んで居るに違ひないが夫れでも天壽に是だけの影響を表示して居るのは恐ろしいものだ。

食物の好き嫌ひ　概して言へば好きも嫌ひもない人が恰ど半數に近いので、餘り食物の好嫌ひをいふやうな神經家は長壽の出來ないこと請合である、然し誰にも一二種の好惡はあるとして好きな物で言へば餅が二十一人、麵類が十三人、魚が十四人、汁粉團子の類が其次ぎといふやうな下戸式だ、又嫌なも

ので言へば魚肉が四十三人、獸肉が十九人其他は胡椒、山椒、唐辛子といふやうな刺戟性の食料になつて居るので、山葵山椒で涙をこぼしながら『ドーもよく利いてイー』なんかんさ嬉しがつて居る手合は大抵寂滅の早いものだと覺悟して居るがよろしい。

規律的生活　所謂宵張りの朝寢坊といふやうな不規律の生活狀態に在る長壽者は一人もないので百六十餘の人が大抵申合せたやうに規則正しい生活をして居るのは龜鑑とすべきものである、朝起の時間でも馬鹿に早いものは少くて、四時が四十六人、五時が四十四人、六時が二十八人其他は極少い、就眠時は八時が四十六人、九時が三十五人、十時が二十九人其他は非常の少數になつて居る、間食するもの四回食事のもの夜食をするものなどは一人もないのみならず食量もヤハリ八分目食のものが大多數を占て居るのを見ても生活の不規律は謹まねばならぬ。

長壽者は陽氣な人　神經的な人間が長命の出來ないのはいふまでもないが長壽者の多數に就いて見ると何れも氣の若い陽氣な性質の人が多い陽氣なばかりでなく悠揚とした好人物が多い、その音曲興行物などの嗜好を聞いても大抵陽氣のものは皆好きだといふ調子で、圍碁のやうなものに熱心なものは一人しかない、中でも一番好きなものは芝居が六十五人淨瑠璃が二十三人、音樂が二十一人、角力が十九人といふ鹽梅である。

長壽者の肥瘦　見るからヒヨロ〳〵とした青二歳の長命は思ひもよらぬ所だが、馬鹿にデブデブと肥つた人にも長命は無いもので、中肉の所が七十九人寧ろ細い方が四十三人——こゝらで聊か都人士の御機嫌も取つて置かう。

大日本婦人衞生會記事

○本會十月例會

本月三日(土曜日)午後一時半より神田の共立女子職業學校に於て例會を開く、先づ醫學士橋本左武郎君には『盲腸炎に就て』の題下の其中に盲腸に就て先日

私の處に來た或る婦人が電車から下りて十町許り歩行たために流產したと云ふ事で診察すると盲腸炎を起して居た色々尋ねて見ると三年前に極輕い盲腸炎を起して事があるがそれが三年ぶりに破裂して多くの膿と血が子宮を壓し折角の愛兒を暗から暗に葬むれる事實は斯の如き次第であるが一般の人は兎に角妊娠中の婦人には殊更右腹部の痛みと熱及び引吊る樣な時には最も注意を要して盲腸炎を未發に防ぐが肝要なり云々と懇切に種々の注意を與へられ、又警視廳の消防機關士土田圓之助君には『火災に對する婦人の責任』と題し、火災より病氣を引起せしもの、又火災に就て統計上より出火の度數を分類して其の燒失家屋の損害高等の概算を述べられて婦人に注意を望まれしが右の講話は二つながら最も有益なるものなりし、當日の聽講者は約百數十名にして盛會なりしが同四時過ぎ散會せり、又出席せられし役員は左の如し。

長谷川仲子　田村喜代子　高橋幸子　羽田三緒子
三宅藤子　濱尾作子　高木鉄子　鳩山春子
小川幸子　岡田德子　岸　邇子等の諸氏(出席順)

○海水浴場の閉鎖

新潟支會は當市衛生會と聯合して開設せる海水浴場は昨年に比して本年は一層設備も完全したるが故に浴客も亦頗る多くして市の衛生上にも尠からざる功ありしが去月十日無事閉場されたり。

○本會入會者

○岩村たま子紹介

●愛媛縣別子山村字中七番五五五　通常會員　染矢ひで子

○岡田德子紹介

●栃木縣下都賀郡皆川村　特別會員　幸島菊子
●麻布區芝森元町一ノ十　通常會員　鈴木つる子

○小川孝子紹介

●神奈川縣見上宿五一五　通常會員　鈴木石子
●同　通常會員　神谷みか子

○事務所申込

●芝區高輪南町三〇　通常會員　崎川つる子
●芝區高輪南町四六　通常會員　崎川千代子

○稲田こはま子紹介

○山形支會入會者

●　特別會員　川田悦子
●　特別會員　河原たね子
●　通常會員　久保田文子

○會員資格變更

●特別ニ　通常會員　川島けい子

○轉居

●樺太牧原樺太廳醫院官舍へ　寄藤きよ子
●神奈川縣鶴見仲ノ町五五七へ　小川孝子
●赤坂區稲吉町一へ　鵜殿誠子
●赤坂區青山南町二へ　神取てう子
●牛込區矢來町四、四六號へ　石川さわ子
●麻布區材木町四へ　本田梅子
●下谷區二長町五二へ　証生たに子
●日本橋區南茅場町へ　大澤うた子

貧血虚弱性婦人及小兒に最も適切なる補血營養强壯劑

增血新藥

ブルターン

（ドクトル ヂーデリツヒ氏新發明）

●ヨードブルターン●ブロームブルターン●キナブルターン

ブルターンの最も賞用するに足る特徴は高度の吸收及同化力を備ふると共に容易に消化せらるゝを以て貧血、虚弱者に對し奏效確實なるは言を俟たず健康體にして本品を服用すれば必らず其度を增加し營養の狀益々良好に赴く殊に有害なるアルコール質を含有せず味佳良にして腐敗の恐れなく「アルブミン酸」幷に「ペプトン」を多量に含有する等旣に多數醫學家の旺んに賞用せられつゝあり

（說明書獨逸文幷に和文無代呈送す）

日本代理店

大阪市東區道修町三丁目

藥種貿易商 塩野義三郎

電話「長」東五四二番

振替貯金口座一一七七三番

消化新藥 タカヂアスターゼ

本品は毎瓶强度一定効力永久不變なりこれ高峯博士發見の新法式に從ふ特長なり

澱粉不消化の一般徴候

醫學博士谷口長雄氏曰く『……澱粉不消化に因する重なる徴候は胃の膨大、疼痛、溜飲、腸内瓦斯蓄積便秘若くは下痢等にして甚く營養の障害を來す是等の疾病に對しタカヂアスターゼの頗る有効なるを信ず』（説明書は直接發賣元に要求せよ郵呈す）

東京市日本橋區南茅場町貳番地

三共合資會社

滋養新劑 ブリコナール錠

本品は各地有名藥舖にあり

本品の説明書は直接發賣元に要求せられよ無代郵呈す

醫學博士 北里柴三郎氏指導の下に化學者佐伯矩氏が牡蠣の滋養成分に就き研究創製せる本劑は滋養劑として肺病及一般病者虚弱者に必適なるのみならず之を用れば自から心臟を强め盗汗を制止し速かに體力を恢復して元氣を旺盛ならしむる特異の効顯あり

東京市日本橋區南茅場町貳番地

三共合資會社

内務省衛生試験所試験済

效用の概要

消毒洗濯兼用

頭髪洗　襟垢油染
絹、綿布　メリヤス類
毛織物類　フランネル
毛布洗濯　窓掛敷布
浴衣婦服　綿帶カーセ類
醫家手術服　硝子器類
銀器陶器　食器類
牛乳瓶及罐　ヨゴレ物一切

孔雀印

英國ブラン門會社
新發明特製專賣品

セスクイ

有效無害洗濯料
避暑避寒◉旅行者必携

金五錢
金拾錢
金貳錢

東京市本郷區本郷貳丁目九番地

在輸入
發賣元　前島丹頂堂藥局

御用ひ方

至極簡便にして手數を省き經濟大德
無比類なし故に家庭の常備品として
是非一度御試用あらん事を希望す

販賣所は到る處の藥店小間物店ニアリ
本品ハ衛生上缺クベカラザル洗濯料ナリ

私立大日本婦人衛生會

茨城支會規則

開設の趣旨及目的　凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を紹まざる可らず之を忽まんとするには必ずや衛生と相俟て而る後始めて全きを得るならん。されば吾人は現今東京に於る該本部に則して更に茨城支會を開設し吾人が日常實行する衛生の事項を以て益研究し益改淨を圖りて其の發達を互に努め力めんとするに在る而已●本會は私立大日本婦人衛生會茨城支會として之を當水戸市に置く●本支會々員たるを望む婦人は何人にても入會するを得●入會手續入會の節は氏名族籍住所等を明記し本會事務所に申込む者とす。但し會員證は東京本部へ通知し終るのち之を交附すと雖ども徴章代は豫め前納せらるべし●會員種類會員を分ちて特別。通常。終身の三種とす終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一月金三十錢以上會員は一月拾五錢を納むるものとす●男子にして本支會の趣旨を賛成する者は之れを賛成員とす●本支會員は本部にて毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得●退會せんとするものは其旨本支會事務所に報知すべし。(死亡等は親戚知人より通知せらるべし)●支本會に左の役員を置く支會長一名、副支會長、幹事六名、評議員十名、書記、會計、庶務は幹事中より各二名づつ互撰分擔す●役員は任期滿一ヶ年とし毎年五月總會に於て投票を以て之を定む●集會は例會總會評議員會及臨時會とす集會八月を除く毎月一回第三の日曜日に之を開く總會は五月適宜の日を以て之を開く急要の件あるときは臨時會若くは評議員會を開きて評議する事あるべし●例會學識經驗ある知名の士に囑托して衛生上の講義演説又は之に關した實驗等をも爲し本支會員に聴講せしむ但會員は知人家族等誘引して參會することを得(此際出席の衣服は總て質素たるべし)●會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は會費を滯納するものある時は本支會長評議會の決議を經て除名する事あるべし●茲に記述したる數項の他その必要と認むべき事項あらば成る可く本部規則を適用するものとす

明治三十四年十月創立

水戸市上市田見小路二十五番地

茨城支會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

幼兒教育叢書第一卷

東京女子高等師範學校教授 中村五六
東京女子高等師範學校助教授 和田實
合著

幼兒教育法

一名改良せられたる幼兒保育法

フレーベル會員一割引

菊判美裝
紙數三百頁
定價金壹圓
郵税金拾錢

教育の隆盛なる前古に比なき明治の聖代にも未だ幼兒教育に關する系統的説明を試みたるものなく所謂名士の斷片的言説の徒に世人を迷はすあるのみ。是本書の因つて出づる所以なり。世の父兄たり教育家たるもの精讀せざる可からず。

發行所 東京女子高等師範學校内 フレーベル會

發賣所 東京神田表神保町 東京堂

幼兒教育叢書第二卷以下順次刊行

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立大日本婦人衛生會 米澤支會規則

第一條 當會は私立大日本婦人衛生會米澤支會と稱し衛生上の研究を目的とし互に智識を交換し社會の幸福を增進するにあり

第二條 支會事務所は當時假に免許町一三六九番地猪股方に設く

第三條 當支會に會長一名副會長一名幹事五名を設く其任期は各一年とす

第四條 毎月一回(第二日曜午後一時より四時迄)講話會を開き毎年五月總會をなし役員改撰庶務會計等の報告をなす

第五條 入會は會員の紹介を經て宿所姓名に會費を添へ事務所へ申込又退會せんとする者は其旨事務所に屆出べし

但し已納の會費は返附せず

第六條 當支會の會費は左の三種として特別會員毎月金參拾錢通常會員甲毎月金拾五錢乙毎月金五錢前納するものとす

但會費拾五錢以上納むる者には本會雜誌を配附す

第七條 會費は雜誌料として本會へ納め一部は支會經費に充て殘餘は銀行へ貯著して支會事業の資金となす

第八條 會員及員外篤志者より金品の寄附あるときは役員協議の上特待員又は贊成員となすべし

第九條 講話の節は汎く婦人の傍聽を許す

第十條 支會々員は質素を旨とし集會の際は可成木綿服を着用する事

第十一條 特に支會則に掲げざるものは本部の會則を適用す

事務所米澤市免許町一三六九

米澤支會

速記應囑

事務所の特長は深切にして然も迅速なるにあり●女流の會合にして男子を近け難き場合若くは著述家翻譯家等の爲めには特に女子の速記者をして之に當らしむ

東京麴町區富士見町五丁目九番地

佃速記事務所

電話番町四十八番

東京市日本橋區本町二丁目

【電話本局千六百六番】

高橋齒科醫院

診察時間

午前九時ヨリ

午後五時迄

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





○本會徽章料左の如し

○通常會員章
第三號
メッキ製拾貳錢、送費六錢
○第二號
正銀製四拾錢、送費六錢

○終身及特別會員章
第一號
七拾錢（黑塗箱入送費九錢）
六拾錢（桐箱入送費六錢）

第二條　會員章は本會竝に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

○入會注意

○御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收人差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料なも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京麴町區富士見町郵便局）宛振出あるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

○會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌を進呈す

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾四圓半頁其二分一以下同之

本誌一部定價貳拾錢

東京市麴町區富士見町一丁目卅二番地
發行所　私立大日本婦人衛生會
（振替貯金口座一〇六〇〇番）

東京市下谷區竹町五番地
編輯兼發行者　齋藤淸之丞

東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地
印刷者　今井甚太郎

明治四十一年十月十六日印刷
同年十月二十日發行
（毎月一回二十日發行）
印刷所　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　杏林舎

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN